

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

研究分担者： 今村顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)
研究協力者： 砂川秀樹 (明治学院大学国際平和研究所)、生島嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)、荒木順 (特定非営利活動法人 akta)、カエベタ亜矢 (新宿区保健所)、
堅多敦子 (都立駒込病院)

研究要旨

本研究は、3年間の調査を通じて、男性に性行為等のサービスを提供する男性のセックスワーカー (MSM-SW)、およびトランスジェンダーのセックスワーカー (TG-SW) の HIV/STI 感染等に関する健康リスク低減のために必要な環境整備の具体的方法を提言することを最終的な目標としてきた。

初年度は、1. 先行研究レビュー 2. MSM 向け性産業の形態の把握と分類などをおこなった。MSM 向け性産業の形態は、経営の型、移動の型、性行為内容の三つの軸によって分類を試みた。経営の型でいうならば、職業的ではない、流動・暫時的に個人交渉型で SW をおこなっている人が、もっとも健康リスクにさらされている可能性が推察された。また、インタビュー調査からは、アダルトビデオ業界と SW 業界との連続性が明らかになった。

2年度目には、以下の三つの調査をおこなった。1. 都内 MSM 向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算、2. A 型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり、3. MSM-SW の置かれている状況の把握 (インタビュー調査)。1の調査結果として、マッサージ/性行為を男性同性間で提供している都内の事業者は、311 軒確認できた。今回リスト化した事業者で働く SW の総数は、2,478 人であった。311 軒のうち、個人自営の (一人でサービス提供をし、自身で経営もおこなっている) 事業者が 65.9% であるが、インタビュー調査では、貧困状態の中で、セックスワークをおこなう MSM-SW が、やはり健康リスクにさらされており、かつ最もサポートが必要とされていることなどが語られた。

最終年度は、1. TG-SW が働く性産業事業者リスト化と同インターネットサイトの分析 2. TG-SW の置かれている状況の把握 (インタビュー調査：7名) を実施した。また、3. MSM-SW の置かれている状況の把握のためのインタビュー調査 (4名) も追加しておこなった。

1において、インターネット上で把握できた全国の、TG-SW が在籍する性産業事業者は 228 軒 (女性主体型 148 TG 専門型 63 混合型 19) であった。それらの店舗で TG-SW として働く人は、1,902 人だった。こうした店舗のインターネットサイト上で、性感染症予防のため客にコンドーム使用を求める文言を明確に提示している店舗は、37.8% しかなかった。

インタビューからは、店舗が客に対してコンドーム使用等を求める態度をいかに明確に示している等が、SW が、客に対する性感染症予防のための態度を貫くことへ影響している様子もうかがえていることから、今後、店舗で働く TG-SW のリスク低減のためには、店舗に対して、サイト上で挿入行為でコンドーム使用が必須であることなどを明示することを求めていくことが有効と考えられる

MSM-SW のインタビュー調査では、売り専経営経験者から、店舗での MSM-SW の現場でアナルセックスでのコンドーム使用などの頻度が高いとしても、繰り返し性行為がある中で生じる HIV 感染のリスクが指摘されるとともに、HIV が検出限界以下になった HIV 陽性者の SW がセックスワークを継続できるようにしていくことの提言がなされた。それを前提にすることが、検査へのハードルが下げ、感染がわかっても言えないという状況を回避できることにもつながるであろう。

A. 研究目的

男性とセックスをする男性（MSM: Men who have Sex with Men）が、HIV や STI のリスクに最もさらされている層に属していることは、世界的に見ても疑う余地が無い。日本でも男性同性間の性行為による感染は、2008 年をピークに横ばいが続いているものの、2016 年の年間報告で、感染者報告数の 72.7% を占め、患者数ではその割合は少し落ちるものの、やはり 55.1% を占める。

また、トランスジェンダー女性（出生時に男性と振り分けられたが、性自認が女性であるなどして女性として生活する人、以下「トランス女性」）も同様に、あるいは MSM 以上に、HIV/STI リスクを負っていることは、海外の研究や HIV/AIDS に関する現場から指摘されてきた。

しかし、一方のトランス女性は、人口全体に占める割合が少ないがゆえに顕在化しづらい。さらに、性別変更しない場合は男性として、変更した場合は女性として統計処理され、トランス女性としては把握されないことから、トランス女性の HIV 感染の状況は明白ではない。

そして、これまで、アクセスの難しさなどから、トランス女性向けの啓発や調査がほとんどおこなわれてこなかった背景もあり、性行為に関してどのような状態におかれ、どのような環境や力関係などのもとでリスクにさらされているかの検討は十分におこなわれていない。

MSM に関しては、日本においても、厚生労働省科学研究費補助金によるエイズ対策研究事業などの中で、ゲイ/バイセクシュアル男性のコミュニティを中心とした調査や啓発活動がおこなわれてきたことにより、実態把握と啓発のための仕組みづくりは継続されてきた。

しかし、その中のサブグループと位置づけられる、「男性同性間の性産業に従事する人たちなど、金銭の授受を伴い性行為をおこなう層」に関しては、調査としても啓発としても、特別に

対象化されアプローチされることはなかった。だ なお、日本のトランス女性のセックスワーカーに関する調査としては、セックスワーカーの当事者と支援者からなるアドボカシー団体などの協力によりおこなわれた東優子らによるものがある。その研究においては、HIV 感染リスクなどのリスク要因は明確に検証されていないものの、トランスジェンダーの人たちの生きづらさを指摘しながら、リスク要因に引き続き注視していく必要性が指摘されている。

よって、本研究は3年間の研究の中で、これまで十分に調査されることのなかった、男性同性間で金銭の授受を伴い性行為をおこなう層、トランス女性で金銭の授受を伴い性行為をおこなう層を対象として、その健康リスクをいかに下げているかという視点をもとに、HIV/STI のリスクとそれに伴う受験行動などについて調査研究するものである。それは、具体的には、彼ら彼女らがどのように HIV や STI の感染リスクを経験しているのか、そのリスクを下げることの妨げとなっている要因があるとするなら、それはどのようなものか、またリスクを経験したときに、HIV/STI 検査やそれも含めた医療ケアの診察へのアクセスの状況はどうなっているのか、そのアクセスのハードルとなっているものは何かを調査するものである。そして、それらの研究を経て、彼ら彼女らの健康リスクを下げしていくための具体的な方策を提言していく。

ここで、対象層に関する用語について説明をおこなっておきたい。本研究班の表題では、対象層を「性産業の事業者および従事者」と表現しているが、後に記すように、先行研究レビューや現状把握のための予備調査を進める中で、現在、金銭の授受を伴う性行為は、「性<産業>」という名称では包括できなくもなっている面がある。

おそらく、もともと多様であったものが、インターネットの利用が増える中で、いっそう個人的、暫時的なやりとりの中でおこなわれる形

へと移行している。

そのような個人的、暫時的な形での金銭の授受を伴う性行為を含めて、近年、英語では **transactional sex**（取引的＝金銭のやりとりのあるセックス）と表現することが多くなっている。また、そのような人たちは、セックスワーカー（あるいは、日本でいうところの「売り専」など、それを意味するゲイ／バイセクシュアルコミュニティでの呼称）としての自己意識を保持していない傾向を持つことも指摘されている。さらに、このように様々な形態が存在する中で、どの領域を切り取るかも難しい課題である。しかし、それらの複雑さの理解と把握こそ、今後、この対象層に対する調査や啓発をおこなっていく際に極めて重要なポイントとなるものと思われる。

そのために、今後、どのような呼称でどのような層を包括するのも検討していく必要がある。しかし今回、論を進めるにあたって、これまでの研究にならぬ、様々な形で「男性同性間で金銭の授受を伴い性行為をおこなう行為」を基本的に **SW**（sex work の略語として）と記述し、その経験のある層を「**MSM-SW**」と記す。だが、それらは「sex work」という表現には合致しづらい形態のものや、アイデンティティも多様な人たちを包括する、便宜的な仮の名称であることを強調しておきたい。

なお、特に職業的にセックスワークに従事している人を特定して指す場合にはカタカナで「セックスワーカー」と記述する。

B.研究方法

1. 先行研究レビュー(2017年実施)

英語の医療系論文のデータベースにおいて、「**MSM HIV**」あるいは「**Transgender HIV**」と、「sex work」か「**transactional sex**」という語をかけた検索により論文を抽出し、過去5年間のものから参考になるテーマのものを選択した。

2. 形態の把握と分類(2017年実施)

インターネット上の調査と、インタビュー調査に基づき、**MSM-SW** のセックスワークの形態の分類をおこなった。それぞれ下記の内容で調査した。

・インターネット上の調査

ゲイ向けインターネット情報サイト「**A**」（仮名）に「売り専・出張」「マッサージ」のカテゴリーで登録されている都内の店を地域ごとに検索し、それらすべての店のサイトをチェックした。

・インタビュー調査（予備調査）

フォーマルインタビューを1名（30代後半：アダルトビデオ出演者）、インフォーマルなインタビューを3名（50代前半：マッサージ利用客／30代前半：SW経験者／40代後半：SW利用客）に実施した。

フォーマルインタビューは自由面接に近い半構造化面接でおこない、ICレコーダーに録音した。インフォーマルなインタビューは研究への協力への同意を得たものの、録音はせず断片的な情報提供を得た程度である。

3. 都内MSM向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（2018年度実施）

1において、ゲイ向けポータルサイトAを用いて都内MSM向け性産業事業者の形態の把握と分類をおこなった。2019年度においては、さらにより掲載数の多い別のポータルサイトBの情報も加え、リストを再構成した。

Bでは、同一事業者のホームページ、ツイッター、ブログ等が、別項目として掲載されているため、すべてチェックした上で事業者ごとの単位の整理した。その上で、それぞれの事業者のホームページを確認し、掲載されている「ボーイ」とも呼ばれるスタッフ（従事者）数を数えるとともに、公開されている連絡先をリスト

化した。

なお、多くの支店を持つ事業者も、ポータルサイト B では支店別に登録されているが、それは1事業者として扱った。確認作業を進めていくと、個人自営という形でホームページがつけられながら、同一事業者がそれらの人たちを抱えながらも、個人自営に見せる仕組みもあることがわかりそれも事業者としては一つと数えた

4. A型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり (2018年度実施)

都内を中心に起きた、男性同性間の性行為を感染経路としたA型肝炎が流行を契機として、MSMの性産業事業者(マッサージのみの提供者を含む)へアクセスし、今後のHIVやSTIに関する情報流通のための関係づくりを図った。具体的には、上記1のプロセスを経て作成したリストをもとに、メールアドレスが公開されている事業者に、A型肝炎流行に関する情報提供を顧客に行うことへの協力を依頼するメールを送信した。客への情報提供という形をとりながら、SW自身も情報を得る機会となることを狙いとしている。

そして、協力的な反応があった事業者と、情報提供の可能な形について相談を進める。そのやり取りを経て、今後、事業者/セックスワーカーから客へ、HIVやSTIに関する情報を流通させるチャンネルづくりの可能性とその方法について探った。

返信内容には、事業者の性感染症の予防に関する意識がわかる内容や、性感染症予防啓発に関する意見が含まれていたことから、その内容を3のSWの置かれている状況の把握の参考にした。

5. MSM-SWの置かれている状況の把握(インタビュー調査)(2018-2019年度実施)

初年度(2017年度)の調査である上記2の、MSM-SWと客の予備調査インタビューにより、

MSM-SWの性産業の把握と分類をおこなったが、2018-2019年度には、MSM-SW、経営者、客、支援者といった様々な立場の関係者へさらにインタビューを重ね、さらに詳細な状況について把握し、MSM-SWの置かれている状況について考察した。

なお、インタビューは、自由面接に近い半構造化面性をおこない、ICレコーダーに録音した。インタビュー内容は、それぞれの立場により違いがあるが、セックスワークに関連することを中心としたインタビューのライフストーリー、セックスワークにおける行為内容と感染症予防、客-SWとの力関係、検査や医療へのアクセスの容易さ、HIV啓発への意見等を聴取した。

(倫理面への配慮...7にも同様に適用)

インタビューに際して、紙面で、研究内容と録音データの扱いについての説明、任意性の確認、インタビュー中断・インタビュー後の協力撤回の自由について説明をおこない、インタビュー、説明者ともにサインし、それぞれ一部保管する。インタビュー内容を引用する際には、匿名性を保持する。

6. TG-SWが働く性産業事業者リスト化と同インターネットサイトの分析

TG-SWが働いている全国の性産業店舗のインターネットサイト、ツイッターアカウント、女装等のTGの人たちが主に使う掲示板をリスト化した。その後、同リストに基づき、地域別店舗数、またそれぞれの店舗で働くTG-SWの数を算出した。さらに、サイト上に掲示されている客に対する注意書き等に、コンドーム使用などHIV/STI予防に関する項目があるかチェックした。

また、掲示板の投稿において、金銭の受領を伴うセックスの相手を募集している人を対象に、インタビュー協力の依頼もおこなった。

なお、リスト化、TG-SW のカウントに関しては、トランスジェンダーアクティビストで、自身もセックスワークの経験があり、セックスワーカーのグループ「SWASH」に所属している畑野とまと氏に協力を得た。

7. TG-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）

TG-SW が置かれている労働環境を把握するため、自由面接に近い半構造化面接をおこない、IC レコーダーに録音した。主な質問項目は下記の通りであるが、自由面接に近い形でおこない、必ずしもこの流れには沿っていない。応答の内容に応じて項目に加除を加えた。

▼年齢（生年） ▼居住地（都道府県） ▼出身地 ▼自身の性自認や性自認にまつわるアイデンティティや呼び名について ▼ジェンダー移行に関するライフヒストリー ▼自身の性産業とのかかわり/働き方（分野、どれくらいのかかわり/働き方か、経緯、現場での性行為の内容とその決定のされ方、その決定への自身の意志、コンドーム使用等、予防の様子、HIV 検査の位置づけ） ▼医療とのかかわり（性感染症が気になったときの診察、他の病気等、体調が悪い時の診察） ▼見聞きしている他の性産業に関して（トランスジェンダーの人が働く性産業の種類について、労働環境） ▼意見（自分が関わっている業界で改善が必要と思うこと、HIV に関連した施策で望むこと） ▼ほか（PrEP についての知識と関心、プライベートな性行為と職業上の性行為における性感染症の予防の違い）

なお、今回のインタビューのリクルートに関しては、調査者がもともとつながりのあった人物への依頼のほか、女装する人向けにロッカーの貸し出しをおこなっている事業者、性風俗で働く人（主に女性）を会員とする口コミサイト運営者に協力を得た。

これらのつながりは、今後、TG-SW に対して

調査や啓発のアプローチをおこなっていく際に有用になるものと思われ、ネットワークづくりを意識したインタビューの実施となった。また、1 でリスト化した掲示板に投稿している人にもコンタクトをとり、その中から 1 名インタビュー協力者を得ている。

C. 研究結果

1. 先行研究レビュー

世界的に、特に先進国を中心として、MSM が HIV 感染リスクに最もさらされていることは、AIDS が最初に報告されたときから現在にいたるまで、感染者数の報告状況からも明らかである。一方、トランス女性は、感染報告の統計としては把握されることが難しい。だが、トランス女性を対象とした HIV/STI に関連する調査では、どの国や地域における調査も、大きなリスクにさらされていることが明らかになっている。2)-5) しかも、MSM との比較では MSM よりもより感染リスクが高いことの報告もある。6),7) そして、そのリスクの背景として、暴力を受けやすいこと、社会的な差別偏見にさらされていること、またパートナーの異性愛男性が主導権を握る傾向にあることが挙げられており、トランス女性の HIV/STI 感染リスクと社会的な位置づけ、パートナーとのジェンダー的な力関係が無視できないことが明らかにされている。

MSM-SW に関しては、SW をしたことのない MSM との HIV 陽性率を比較した調査においては、MSM-SW の陽性率が高いとする報告 8),9) と、変わらないとする報告 10) とがある。

その結果を受け、Catherine E. Oldenburg ら 11) は、MSM-SW とそうではない MSM の HIV 陽性率を比較した 33 の調査のメタ分析をおこなった。その結果、総合してみると、MSM-SW の HIV の陽性率は、他の MSM より高まると結論を出している（なお、Oldenburg らは、transactional sex という言葉を用い MSM-TS と

表現している)。

しかし、このメタ分析で対象となった調査がおこなわれた地域は、東南アジア (ラオス、インドネシア、タイ、ベトナム)、東アジア (中国)、ラテンアメリカ (アルゼンチン、エクアドル、エルサルバドル、ペルー)、サハラ以南アフリカ (ケニア、セネガル、南アフリカ、ウガンダ)、北アメリカ (アメリカ合衆国)、中東 (イスラエル) の、7つの地域 17カ国にわたっているが、地域別に分析すると、ラテンアメリカとサハラ以南アフリカだけが、統計的に優位に陽性率が高いという結果となっている。

この地域による違いについて、Oldenburgらは、それぞれの地域や国全体における HIV の感染拡大の程度や層との関連が指摘しながらも、SW (論文中は TS) の定義の違いと、それにより調査に含まれる対象者の多様さの影響を挙げている。

タイの調査では、これまでに SW をしたことがある、あるいは過去 12 ヶ月において SW をしたことがある MSM においては、HIV 感染率は有意に高くなっていたが、「(職業的な) セックスワーカー」の間では感染率が下がる傾向にあった。

また、中国の調査でも似たような結果が出ており、「セックスワーカー」では統計的優位に HIV 感染率が下がっていた。さらに、過去 12 ヶ月の SW の経験と定義した場合、SW と HIV 感染率に関係は見られなかった。

他の中国の調査では、「セックスワーカー」のほうが SW の経験のない人よりコンドームの使用率が高いという結果も出ており、HIV 感染リスクの認識に違いがあるのではないかと、Oldenburgらは指摘している。

しかし、この論文の中でも指摘されているが、このメタ分析はその性質上、HIV 感染が SW が開始された後におこったのか、開始される前にあったのか、という点は明らかにできない (感染後に貧困状態に陥り SW を始めた可能性

も考えられる)。また、MSM-SW としてくくられても、ストリートで客を見つけるのか、インターネットを通じて見つけるのかといった違いによる、HIV 感染に対するヴァルネラビリティの違いも示すことができないという限界がある。

これらの指摘からも、MSM-SW 中の多様性は、この層の健康リスクについて考える上で重要な視点となっている。

米国でのある研究では、MSM-SW が客と出会うために用いる 2 つの異なるインターネットサイトの比較調査もおこなわれ、その差異も指摘されている。12) その調査によると、一方のサイトが他方のサイトよりも、フルタイムで SW をおこなっている率が低く、最後の客とのアナルインターコースの率が低く、過去 30 日間での客の数も少なかった結果が出ており、このサイトの利用者は、経済的には他方のサイトの利用者よりも不利であるにもかかわらず、アナルインターコースやコンドームなしのアナルインターコースをおこなう率が低かったという。

そしてまた、インターネットの普及以降、MSM-SW のあり方の変化も指摘されており、MSM-SW にアプローチする上で十分に考慮しなければならない。

オーストラリアの研究では、MSM-SW が客と出会う場がインターネットへ移行した結果、SW に関するリスクのマネジメントが社会的なコントロールから、クライアントと MSM-SW のオンライン・コミュニティ (communities) 内でインフォーマルにおこなわれるやりとり

(practices) へと移行していることが指摘されている。13) また、インターネットを通して MSM-SW が多様な地域で顕在化し、異性愛者の男性や女性が新しいクライアントとなりつつあるという。14)

そして、オランダの調査では、女性とのセックスだけでなく、他の MSM-SW とのセックスがあることも指摘されており 15)、さらに、中

国の調査では、セックスワーカーとして従事する人は、そうでない人よりクライアントとしての経験を持っていることが多い、という結果も出ている。16) MSM-SW としての多様性だけではなく、SW の現場に限らず相手との関係性の多様性も視野に入れる必要があるだろう。

また、これまで、MSM-SW において必ずしも SW がリスクの原因ではないこと 17)、顧客とより親密なパートナーとの関係でのほうがコンドームの使用率が下がること 18)、などの報告も出されている。よって、MSM-SW を対象層としても、その健康リスクを考えるとときには、SW だけでとらえない視点が重要である。さらには、SW をおこなっているからと言って、かならずしもセックスワーカーとしてのアイデンティティがあるわけでもなく 19)、調査や啓発をおこなっていくときの対象の設定や呼びかけ方などには十分な注意が必要である。

そして、MSM-SW の健康リスクの低減ということを意識するならば、様々な関係における予防行動だけでなく、HIV/STI の感染の可能性があったときに、いかに検査を含めた医療サービスにアクセスできるかということが重要な課題となる。

米国の調査では、MSM-SW は、HIV 検査の率は高かったものの、他の STI の検査は低く、加入保険でカバーできる範囲が小さく、プライマリーケア、薬物に関する治療、メンタルヘルスのサービスなどのヘルスケアのニーズにうまく合致していなかったという研究結果が出ている。20) また、同じ MSM でも、セックスワーカーとそうではない人とでは、セックスワーカーのほうが、MSM であるということよりも、様々な問題（ホームレス状態にあることや、薬物の問題、貧困など）を理由とした医療に対する不信感を持ち、差別的な対応を受けたことを報告している。さらに、セックスワーカーではない MSM のほうが、自分の性行動についてより話す傾向にあり、これらの違いが PrEP を含

めた医療サービスへのアクセスの違いを生む可能性をはらんでいることが指摘されている。21)

これらの先行研究は、MSM-SW が、安心して受診できる医療現場づくり、そしてそれらのリソースの情報提供の必要性を示していると言えるだろう。さらに、MSM 全体でも課題となっている問題でもあるが、MSM-SW におけるアルコールや薬物の問題 22)-24)、親密なパートナーからの暴力の問題 25)-26)なども指摘されており、単に医療的な検査を受けるだけでなく、MSM-SW が自分の抱える問題を語れる相談先も求められている。

2. 形態の把握と分類

種別名と呼称について

「売り専・出張」「マッサージ」は、同情報サイトによる分類名であり、それぞれの店が登録する際に選択する形式となっている。しかし、実際に一つ一つの店の案内文やサイトを調べてみると、それらの区分は明確にはなっていない。

「売り専」という言葉は、もともとは、MSM の間では、狭義では、以下のものを指す傾向にある。(1)店内にスタッフが待機し、そこに客が来て指名し共に外出するか（その場合、必ずしも性行為が伴うとは限らない）、あるいは、独自に持っている個室を利用し性行為をおこなう店 (2) それらの店で働く人。しかし、広い意味では、個人レベルでのやりとりも含めて、金銭の授受を伴って性行為をすること、またそれをおこなう人を指すこともある。

「売り専」という言葉は、MSM の間では金銭の授受を伴うセックスをめぐって最も頻繁に用いられる語であり、スティグマも含めて様々な象徴性も持つ。そのため、その語の持つ意味についての分析も必要であるが、店、人、行為すべてを指すなど、意味が流動であることから、今回の研究テーマの、店の性質の把握や分類には適しない。よって、ここでは違う観点から分類分析を加えていく。ただし、インタビューなど

の語りに出てきた場合には、その語を用い、それが具体的に何を指しているかを明示する。

また、マッサージという分類も、性的なサービスを伴わない店から、インターコースまで想定されている店まで含まれており、別の観点からの分類分析が必要である。これらの分類分析は、それぞれの店のサイトの情報だけではなく、次のインタビューの内容も含めて考察においておこなう。

インタビュー調査（予備調査）

・mw-Aさん

フォーマルインタビューのインタビューーAさんは、30代後半のゲイであり、企業で働くかわら、アダルトビデオ（AV）に出演しており、インタビューの段階で、性的なサービスも提供する「マッサージ」のスタッフの募集へ応募していた。

もともと本研究では、AV業界は、調査対象として視野に入れていなかったが、Aさんによると、「売り専」とAV業界は密接な関係にあり、「売り専」で働く人がリクルートされてAVに出ることは非常に多く、また、その逆にAVに出たのちに、「売り専」で働き始める人もいることから、それらは切り離せないという（ここで言われている「売り専」とは、職業的にSWをしている人を指している）。実際に、サイト上の広告でも、AVに出ているスタッフがいることを強調している店も見られた。

Aさんによると、彼が出演しているAV会社はコンドーム使用に関しては、徹底して指導しているという。また彼自身は、PrEP（暴露前投与）を個人輸入によりおこなっている。そして、彼自身は、出演に際しHIVに関するステータスの確認等がないことに疑問感じており、業界全体として考えるべきことではないかと考えている。それは、挿入行為においてコンドームを使用し、挿入相手が変わるときにコンドームを変えるよう徹底しても、大人数による撮影の

際には、手についた精液がコンドーム上などに付着するなどのことを懸念してのことである。

また、彼は、知り合いの「売り専」で働く人が「ハッテン場」（MSMの人が集まり性行為をおこなう場所）でコンドームなしのセックスをしていることにも触れている。先行研究の中でも指摘されていることだが、当然のことながら、MSM-SWの健康リスクを考える際に、SWの場だけに限定される問題ではない。

さらに、MSMのAV業界では、違う会社の作品に出ることは珍しくなく、会社によってはコンドームなしのセックスを強調することで差別化をはかり業績をあげる傾向もあり、「売り専」との重なりに関わらずAV出演者の健康リスクの問題も同時に視野に入れていく必要があるだろう。

そして、彼が応募していた「マッサージ」だが、その店はもともとAVに出演していた人が経営しており、性的なサービスも提供しているという。ただし手袋も着用しての性的サービス提供する形で、HIV/STI予防を徹底している。

・mw-Bさん

このように、「マッサージ」としての営業名で、性的サービスをおこなう店は多いことが、インフォーマルなインタビューに応じてくれたBさん（50代前半）からも聞かれた。彼は、客として「20-30軒ほどのゲイがやっているマッサージ店」の利用経験があるが、「自分が行ったことのある、ゲイがやっている『マッサージ』はたいがい『抜きあり』だった」と語っている。ちなみに、ここで言う「抜きあり」とは、客に射精をさせることを意味しており、性的なサービスが伴うことだ。

ただし、彼は、「もちろんマッサージだけの店もあった」こと、自分は店のサイトを見て、「抜きありだろう」と思ったところを選んでアクセスした結果であることを強調している。また、「抜きあり」とは言っても、基本的に「マッサ

ージ」は手によって射精させることがほとんどで、彼はこれまでの経験では HIV/STI の感染リスクが高い行為がおこなわれたことはないと言う。

・mw-C さん

MSM-SW として 20 代前半の頃に 3 年ほど出張専門の SW の仕事をしてきた経験のある B さん (30 代前半) も、仕事の中でコンドームなしのアナルインターコースはなかったという。

B さんが勤めていた先では、管理者とは面接時に会うだけで、その後はメールのやりとりで仕事をおこなっていた。シフト表に応じて客が決まると、日時と場所を管理者からメールで受け取り、仕事の始まりと終わりにメールで報告し、管理者に支払うべき分を振り込む。

そこでは、最初の面接時に「必ずセーフですること、それに応じない客がいたら連絡すること」が通達されており、客側もそれを承知で申し込んでくることから、コンドームなしのアナルセックスにいたることはまずないという。3 年間のうちで、それを求める客が 2-3 人いたが、それは断ったと B さんは語った。

そのときに断りづらくなかったかと尋ねたところ、「仕事だから！プライベートでは全然だけど」と答えた。プライベートでのセックスでは、相手まかせだったという。彼にとっては、「仕事」という形が予防行動を支えたということになる。

・mw-D さん

一方、D さん (40 代後半) が語った、お金を支払っておこなったセックスの経験は、金銭の授受を伴うセックスの中でも、A~C さんとは、違う現場を浮き彫りにしている。

D さんは、4 回、セックスに関連してお金を払ったことがあるが、職業的な意味でのセックスワークを利用したことがあるのは一回だけで

ある。それは「マッサージ」だが、それに関しては、先の B さんと同様、やはり手による射精があっただけで、特に HIV/STI のリスクがある行為はなかった。

しかし、他の金銭を伴うセックスはそうではなかった。もともと、D さんは、「barebacker」(アナルインターコースでもコンドームを基本的に使用しない人を指す言葉) を自称しており、インターネットでの書き込みにあいて、自分が被挿入側として、bareback の相手を募集することが多いという。そして、そのようなやりとりの中で、セックスに金銭の授受が関係することが 3 回あり、それぞれ以下のような成り行きだったという。

・相手 (20 代) の家へ行き、コンドームなしの挿入と射精があったあとに、「いくらでもいので、お金をもらえないか」と頼まれて 2 千円払った。

・自身が宿泊しているホテルの部屋に来た相手 (40 代) から、行為の前に「2 千円貸して欲しい」言われて、2 千円お金を出したが、何もせずに帰ってもらった。

・自分の家に来てもらって、やはりコンドームなしの挿入と射精があったあとに、相手 (30 代) に「千円でいいのでお金を出して欲しい」と言われ千円を払った。

そして、掲示板に bareback の相手の募集を出す、必ず、3-4 人から、「サポでなら」という条件で連絡が来るといふ。また、毎回メールを送ってくる人も複数おり、その人たちは、掲示板にも毎日投稿していると D さんは語る。「サポ」というのは、「サポート」の略でお金を提供することを意味する。ただし、彼は、「以前、コンドーム使用を条件に相手募集をおこなったときにもメール来たけれど」と語っており、同じ掲示板でのやりとりでの「取引的セックス」でも、当然ながら、HIV/STI 感染予防行動をとった上でおこなっている人たちもいる。

しかし、たった 1 人のわずか 3 回のケースだ

が、これらの、「セックスワーカー」とは位置づけるには難しい、しかし金銭の授受を伴ったセックスの背景には、一部のMSMが経験している貧困がある可能性が見え隠れしている。そして、先行研究レビューで触れた、職業的なセックスワーカーより、そうではないSW経験者がHIV感染リスクが高いという研究結果とも合致している。

3. 都内MSM向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（2018年度実施）

マッサージ／性行為を、男性同性間で提供している都内の事業者は、311軒（昨年度、把握できていたのは97軒）存在していた。なお、多数の支店を持つ事業者もあるが、支店を一軒として数えるのではなく、全体で一軒と数えている。調査手法上、当然、サイトを持たない事業者は含まれない。サイトを持たない事業者は、基本的に、老舗でバー形式の売り専（客がバーで飲み、ボーイを指名し外出する形式）であり、基本的に、新宿二丁目に店舗を構えている数店舗と思われる。

今回リスト化した事業者で働くセックスワーカーの総数は、2,478人であった。より多く登録しているように見えるサイトも散見されるため正確ではないが、逆にサイトを持たない事業者などもあることを考慮すると、概ね現実を反映している数値であると思われる。

311軒の規模の分類等に関しては、考察に記載する。

4. A型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり（2018年度実施）

リスト化した311軒中、サイト上でメールアドレスを公開している168軒へ、担当の研究協力者と主任研究者の連絡先を明記した協力要請のメールを送信した。

結果、返信があったものは、15軒。パンフレット配布への協力承諾は8軒であった。うち2

軒は、ホームページに、A型肝炎流行に関するサイトへのリンクを貼る形の協力申し出があった。

他は、客が怖がることへの不安、感染するような行為のあるサービスをしていない、などを理由に協力は難しいといった返事であった。

5. MSM-SWの置かれている状況の把握（インタビュー調査）（2018-2019年度実施）

<2018年度実施分>

セックスワーカー	7人	1人は、トランス男性（=FtM：女性から男性へのトランスジェンダー）
経営者	2人	大規模店1、小規模店1
客	2人	1人はAV制作への関わり
セックスワーカー支援者	1人	自身も路上で客と出会う形でのセックスワーカーだった経験を持つ
合計		12人

それぞれの簡単な経歴等を下記にまとめ、重要なインタビュー内容は考察に示す。

【セックスワーカー...mw】

mw-Iさん：50代

<立場>出張マッサージ（個人自営）

<経歴等>5年ほど前に、ゲイ向けアダルトビデオ、何作かに出演。マッサージを勧められ、それからマッサージを始めるように。最初は、雇われる形で始め、2年ほどして独立。今は、ひとりでやっている。雇われているときも今も、行為の内容としてはアナルセックスまでである。場所は、相手の部屋やホテルへ行く形。アナルセックスを選ぶ人と、ないコースを選ぶ人は半々くらい。なくても、希望があればオーラルまではあり。普段は会社員として勤めており、マッサージ業は週末だけ。オーラルセックスではコンドームは使わないが、アナルセックスでは必ず使っている。使わないことを強制されることはない。

mw-J さん : 30 代

<立場>マッサージ (個人自営) / 小規模店舗の受付

<経歴等>自分でマッサージを始めたのは約1年。自宅兼仕事場となっている場所に来てもらう形。自分でマッサージを始める前から、20年くらい続く男性同性間のマッサージ店の受付をしている。そこでは1年半くらい働いている。その店は、スタッフは15人ほどいて、性行為としては手で客を射精させるまでで、それ以外は禁止されている。働いている人は20歳から40歳くらいで、ノンケ (異性愛者) が多い。他のマッサージをやっているところへ、自分の自営マッサージの参考にするために行ったりするが、どこもオーラルセックスまでで、そのときにコンドームを使うところはない。

mw-G さん : 50 代

<立場>マッサージ (個人自営)

<経歴等>自分でマッサージを始めて10年くらい。自宅兼仕事場の場所に来てもらう形。その前に、支店をいくつか持つ店舗型マッサージ店で働いていた。11~12年くらい。よって、マッサージの仕事は、トータルで21~22年になる。今、自分のホームページでは「抜きあり」とは書いていないので、自分は、マッサージメインと思っているが、客は抜きありを期待してくることがほとんど。オーラルですることもあるが、そのときにコンドームは使わない。こういう仕事をしているので、プライベートでも予防するようにしている (アナルセックスではコンドームを必ず使うように)。

mw-H さん : 40 代、

<立場>マッサージ (個人自営) / 客としてマッサージ利用

<経歴等>10年程前に3年くらい集中的にマッサージをやっていた。今も、サイトを消していないので、連絡があって都合が合うことがあつ

たらやる。お互いのタイプもあるので、手で抜くだけだったり、オーラルがあったり。アナルも、相手に求められてなりゆきで3回くらい。 / (客として) マッサージサイト (マッサージサービスを売る人、買う人が個人でメッセージを乗せるインターネットサイト) で探して。客として利用する場合、アナルセックスまではしない。オーラルまでで、そのときは、コンドームは使わない。

mw-I さん : 40 代

<種別>売り専 (中規模店・被雇用) / ビデオ出演

<経歴等>現在、ボーイが30人くらい在籍しているところで働いている。そこで働いて、2年半くらい。事務所に個室が併設されており、そこを使うこともあるが、ホテルや自宅に出張したりもする。本業を持っているので、本業が休みのときにシフトに入る形。事務所などで待機する必要はない。最初に、セックスワークを始めたのは、32か3歳のとき。売り専のお店に所属する形で。そこで、2、3年働き、さらに、別のお店で1年半くらい。いずれも、待機はなく、指名が入ったら直接向かう形。前の店も今の店も、サイトに健康を守るためにコンドームを使ってくださいと書いてあったと思うが、マネージャーからそうしたことに関する指示はなかったと思う。ビデオにも2、3年前から出ている。そこでは、アナルでは必ずコンドーム使ってください、と。

mw-J さん : 30 代

<立場>売り専 (小規模店・被雇用) / ビデオ

<経歴等>小規模 (登録6人) の売り専の店で働いている。本業は別にある。登録したのは、2017年の3月、4月だったが、最初に客がついたのは6月。アナルセックスでウケ (挿入される側) のお客さんの「トレーニング」をするというサービス内容。店としては、手袋とゴムは

必須。キスも店としては断っている。こちらからオーラルをすることはなく、客がしたいと希望すればあり。そのときもコンドームをつける。プレイできる場所もあるが、基本的には派遣の形。この仕事を始める前から、2012年からアダルトビデオに出演。出演しているビデオでは、アナルではコンドームは必ず使うことが徹底されている。性感染症の検査等に関して確認されることはない。

mw-Kさん：20代

<立場>派遣型風俗（中規模店-被雇用：トランス男性として男性向けにサービスを提供）
<経歴等>1年以上前から、今の仕事を始める。本業は別にある。待機する場所はなく、この時間にこの場所で予約が入ったのでお願いします、という形。指名がなければLINE（メッセージアプリ）で、空いていたら入ってください、と。本業は別にあり、月に1回くらいこの仕事をする感じ。女性の風俗に比べると利用者は少ない。性行為は、フェラチオでもゴムを使う。挿入はできないので、素股で。働き始めたときに、マニュアル渡されて、それを見るだけ。今、自分は、戸籍上は男性だけれども、性器としては膣を閉じていないので、女性器の状態。店からは膣を使ったセックスはしないでください、と言われてもいる。スタッフによっては膣を使ったセックスがあることもあるみたい。アナルは、オプションで別料金。でも、ほとんどのスタッフは、アナルはダメにしていると思う。トランス女性は、アナルは必須なので、アナルセックスをしたい客はそっちに行ったりする。客として来る人たちは、ゲイではない人たち。ある程度のセックスをしてきて、ちょっと変わったセックスをしたい人たち。

【経営者...mo】

mo-Lさん：40代

<立場>売り専（大規模店-経営：従事者は18～

20代50人以上）

<種別>売り専（a.出張／個室 b. バー型）

<経営形態>aは、客から電話がかかってきて、ホテルに出張する形か、事務所に来てもらい、写真で選んでもらう。待機しているボーイと顔を合わせて、気に入ったら連れ出すか。いくつか個室を所有してあるので、そこを使うことも。bは、カウンターの中にボーイがいるバー形式で、気に入ったボーイを指名して連れ出る。やはり個室を使うことも可能。ただ飲んで帰る人も多い。飲むだけなら女性も入店可。aとbで働いているボーイは重なっている。ボーイは、スカウトをして雇う。寮があり、30人くらい寮に入っている。出張に行くときには、ボーイには必ずコンドームとローション（潤滑剤）を持参させ、アナルでは必ずつけるようにと指導している。フェラチオでは使わない。HIVなどの検査は各個人に任せているが、店長が厳しい人で、調子が悪いボーイがいたら検査に行くように勧めて、時には店長がついていく。発展場と売り専は客層は違うので、HIVはそんなに蔓延していないのではないかと思う。30年近く前、自分もボーイをやっていた。その時代は、コンドームをつけるという感覚がなかった時代で、それでも性感染症にかからなかった。むしろ、やめた後に、B型肝炎とか経験した。そのときの感覚で、大丈夫なんじゃないかと思ってしまうところがある。

mo-Mさん：30代

<立場>売り専（個室／出張）（小規模店-経営：従業者は20代10人）

<性行為>手、オーラル、アナル

<経歴等>もともと、自分自身、売り専でスタッフとして5年くらい、小規模店で働いていた。それを辞めた後に、経営を始め4年目。本業は別にある。スタッフは入れ替わりが激しいが、10人前後。皆、20代。部屋があり、そこに来てもらう形か、自宅、ホテルへ出張。客はネ

ットで指名する。完全にネット型。スタッフは事務所待機はせずに、そのまま直行する。スタッフは、ゲイとかバイの人が多い。ノンケ（異性愛）の人は、1割くらい。働く人はスカウトはしておらず、自分で「売り専」と検索エンジンで調べて来る。この仕事一本でやっている人はスタッフにはいない。これだけでは生活できないので、そういう人は雇わない。なので、皆、本業を持っている。ちゃんとした仕事している人も。学生もいたりすることもある。HIV検査はそれぞれに任せている。サイトには、感染症予防のためケツ舐めも禁止と明記してある（もともとマッサージだけやっていた時期があったこともあり）。

【客...mp】

mp-N さん：20代、

＜立場＞客として利用

＜形態＞個室、出張

＜経歴等＞性経験らしい性経験がなく、いきなりネットで出会いを見つけるのは不安で、仕事をしている人の方がリードしてくれるのではないかと利用した。最初は、3年前（20代半ば）、ホームページで見て、評判も検索して決めた。電話をして指名、マンションの一室で事務の人と会い、支払ったのち、併設されている個室で性行為。フェラチオを主にしてもらう形だったが、その際はコンドームなし。アナルでは向こうがリードしてつけてくれた。2回目、3回目は出張型で自分の部屋に来てもらった。フェラチオではコンドームなし、アナルでは向こうが持参したゴムを自分でつけた。4回目～6回目は個室があるところで。行為も予防も同じ。ただ、6回目は相手の希望で口の中に射精

mp-O さん：30代

＜立場＞客として利用／アダルトビデオ編集

＜形態＞個室（待機型）

＜経歴等＞客として利用したのは去年。しばらく

入院したあとで太ってしまっていたので、それでは相手は見つからないだろうと思い、また、セックスに慣れるには、ボーイさんで慣れたほうがいだろうと思った。お店に行き、指名し、シャワーのある個室に行く形。4回とも同じ人。相手はオーラルはせず、アナルではコンドームを必ず使った（ボーイが自分でつけて挿入）。でも、相手はお尻を舐めたりしていたので、それはいいのかな？と思った。自分の友達とかを見ていると、売り専の人が予防には気を使っている。売り専をしている人と3-4ヶ月付き合ったことがあったけれど、彼は、自分とのセックスでも気をつけていたし、もともと、ノンケ（異性愛者）でもあり、あまりセックスが好きじゃなかった。ビデオの編集の仕事にかかわったことがある。ビデオ会社は、母体が売り専の会社のところがあるが、そういうところは、ビデオに出ることで、指名が増えるということで、売り専のボーイが積極的にビデオに出る。

【支援者...supporter】

ms-P さん：30代

＜立場＞路上でのセックスワーカーを経て、その後、支援者、相談者として活動

＜支援対象者の状況について＞売り専に所属している子たちと、路上の子たちは全然置かれている状況が違う。売り専に所属している子は、路上に、二丁目の街に立っている子と友達になっちゃいけないし、関わっちゃいけない。なぜなら、お店介して会っているお客さんを路上で引くことができるから、商売敵でもあるし。自分が、皆に生活保護受けるように勧めたから、生活保護につながるようになった。そのため、路上にはあまりいないかもしれない。最近に、自分のところに相談に来るのは、生活保護受けているもと路上の子とか。男性同性間のセックスワークの話のときに、売り専（お店の形態）のこととして全てが語られると、そう

ではない、そういう子たちにとっては、「また路上のことやってないんじゃないの」という感じになると思う。(路上などでセックスワークをしている人たちについては、考察にもインタビュー内容を掲載)

<2019 年度実施分>

セックス ワーカー	2名	売り専店従事1 個人1
経営者	1名	中規模1
経営経験者	1名	
合計		4名

TG-SW と同様、ここでは、それぞれの簡単な経歴等を提示し、重要なインタビュー内容は分析を加えながら考察に示す。以下、経歴等の言葉は、本人の語りそのものでなく、引用者により調整されている。

【セックスワーカー】

mw-A さん : 30 代

<立場> 「売り専」勤務 (副業)

<経歴等> お店に所属しつつ、普段は会社員をしている。お店は、客室もあるが、派遣でホテルやお客の家へ行くこともある。そこでは、働いて4年ほど、登録は10人前後で、皆、副業。フェラチオでコンドームは使わないが、アナルでは必ず使う。19歳の頃から、10年くらい全国に支店のあるような大規模店で働いていたこともある。そこでもアナルではコンドームを使うように厳しく言われていた。ただ、当時は、常連客が相手だと、相手が求めてくると使わないこともあった。今は、常連でも使わないという事は、ない。性感染症は全般検査を受けてきたが、いずれもなったことはない。毛ジラミすら経験がない。

mw-B さん : 20 代

<立場> サポ、売り専での従事経験あり

<経歴等> 2年くらい前から、1ヶ月に1回くらい掲示板でサポ募集で、お金もらってセックスすることがある。サポしてもいいという感じのことを書いていた40代の人にこちらからメールして会ったのが最初。そのときは、フェラチオとアナルの受けをしたけど、ゴム使わなかった。それから、ゴムは使ったり使わなかったり。相手まかせ。でも、つけたがらない人が多い。一人だけ、陽性だけど治療して移さないからとかいう人もいた。そのときは、つけた。HIVの検査、最後に受けたのは1年前くらいで、梅毒もそのときに受けたけど、大丈夫だった。5年くらい前に、売り専で働いたこともあるが、すぐやめた。大きなチェーン店だったけど、マネージャーと合わなくて。そのときは、ゴムはフェラでは使わなかったけど、アナルでは使った。店からつけるように言われてたし。で、しばらく付き合ってる相手がいたんだけど、別れてから掲示板を使うようになって、それからって感じ。

【経営者】

mo-C さん : 40 代

<立場> 売り専の経営者、ボーイとして勤務の経験あり

<経歴> 働いている人は30人前後。30代が多く、長く勤務している人も多い。うちでは、ほとんどが兼業でやっている。専業で飛び込んでくる人の採用は、よっぽどでないとしめない。どうしても売り上げはだんだんと落ちていくので。他の地域から1週間とか1ヶ月とかでかせぎに来る子もいる。すぐ辞める人と長く働く人、たぶん両極。客はバラバラだけれど、経済力がある人なんで、やっぱり40、50代がメイン。行為自体は、フェラチオと、一応、アナルセックスまである。ただ、できるだけ本人に聞き出すようにしている。できるけど、がつつり

できないっていう人も、なんでも来いみたいな人と、全然アナルはダメな人といろいろあるんで。最近では、できない、どちらかだけという人も増えてきている。アナルセックスではコンドームが前提。お客さんもリスクのあることがしたい場合は、先に聞いてくることが多い。ボーイに飲ませるとかは実はあんまり聞かれたことなく、自分が飲みたいけどいいか、とか自身のセックスワークの経験は、最初は、個人でネットで、今でいうサポートみたいな感じでやっていた。98年から2000年くらい。僕は、コンドーム使いたかったし、気をつけていた。HIVのことは詳しく知っていないこともあって。でも、その後、店で働くようになり、コンドーム使用に関して、アナルセックスでもボーイからは言い出さないようにという感じで言われて。お客さんが使いたかったら、と。男性は生が基本で、お互い大丈夫でしょう、みたいな雰囲気だった。コンドーム使うってことはやばいの、みたいな、僕は怖いので強引に使っていた。

【経営経験者】

mo-D さん

＜立場＞売り専の経営の経験あり
 ＜経歴＞売り専の経営をしているときに、ボーイが HIV に感染した経験があるということもあり、また、これまで、HIV に感染した MSM-SW の相談を受けることが何度かあった。今回、HIV とセックスワークの問題についての考えをうかがった。内容の関係から、本人の経歴についての詳細は省くが、ボーイとして働いた経験、売り専経営の経験があり、売り専業界に長いかかわりがある。

6. 全国の TG-SW 在籍の性産業事業者のリスト化、従事者数の概算（インターネット調査）

TG-SW が在籍している性産業事業者は、今回、インターネットサイトで把握した範囲では、全国に 228 軒あり、トランス女性として在

籍している人は 1902 人、トランス男性として在籍している人は 57 人である。

今回、ヘルス、デリヘル、ソープなどの業態をピックアップしているが、それらを女性主体の店と、「ニューハーフヘルス」「ニューハーフデリヘル」などの TG 専門、および混合タイプに分けている。女性主体の店では、TG-SW の所属が 1 名というところが多い。ただし、あくまでサイト等の情報から判別できる範囲であり、完全に性別を移行し女性として働いているケースも一定数存在することが考えられる。

地域別の店舗数は表 1 の通りである。この表からもわかるように、専門の大部分が大都市にあり、東京、愛知、大阪、福岡で 43 軒、全国の 68.2% を占める。また、TG-SW の数も、東京だけで 884 人となり、今回把握できた TG-SW の 46.5% を占め、千葉、神奈川、埼玉まで合わせると 49.5% (942 人) とほぼ半分を占める。なお、全国に 10 店の支店を持つ大きな事業者も存在している。

専門と混合型の店舗のサイトは、注意書き等に HIV/STI 予防に関係する記述の有無をチェックした。その結果は、考察に記載する。

地域	女性主体	専門	混合	合計
北海道	7	1	0	8
東北	15	3	1	19
関東	28	33	9	70
東京（再掲）	6	24	5	35
中部	43	7	1	51
愛知（再掲）	4	4	1	10
近畿	14	11	1	26
大阪（再掲）	4	10	0	14
四国	5	1	2	8
九州	17	5	0	22
福岡（再掲）	3	5	0	
沖縄	3	1	0	4
合計	146	63	19	228

（表 1）地域別事業者数

7. TG-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）

今回のインタビュー協力者は下記の通り。

元ワーカー &アクティ ビスト	1名	
セックス ワーカー	5名	1人は、トランス男性 (=FtM：女性から男性へ のトランスジェンダー)、 1人は、性自認不明確
サイト 運営者	1名	非トランス女性。自身 も、異性愛者向けのあら ゆる業態の性風俗を経験 してきた。
合計	7名	

ここでは、それぞれの簡単な経歴等を提示し、重要なインタビュー内容は分析を加えながら考察に示す。以下、経歴等の言葉は、本人の語りそのものでなく、引用者により調整されている。

【元ワーカー&アクティビスト】

tw-Aさん

<立場>ランス女性/元セックスワーカー（ニューハーフヘルス店従事、自営）

<経歴等>セックスワークに入ったのは95年の8月頃。仕事を辞めることになり、一緒に住んでいた相方〔注：パートナーの意味〕と無職の状況になり、二人で相談して、風俗で働くことにした。ニューハーフヘルスが、ちょうど住んでいるところの近くにあり、電話して、初日面接、明日から来てっていわれて、すぐに。出張はなかった。

性行為は、アナルセックス、フェラチオ。アナルセックスではコンドームは使用するが、フェラは使わないので、それはうがいで。で、割と店側からは、セーフセックスをきっちりするよう言われた。客にゴム使いたくないというこ

とを言われても、それは断れるようになっていた。そこでは、2年半くらい働いた。それは長いほうで、いる間にキャスト【店に在籍するSW】は入れ替わった。

その後、97年か98年にお店をやめたあとに、相方と2人でデリヘルを立ち上げた。2人がキャストで。当時は都内にはデリヘルはほとんどなく、車買って。受付を24時までにしておこなった。デリヘルのノウハウを持っていた。すでに、セックスワーカーのグループとかに関わっていたらから、出張のやりかたの話とかも聞いていた。セックスワークは2007年くらいまで。

【セックスワーカー】

tw-Bさん：30代前半

<立場>トランス女性/セックスワーカー（現在、ニューハーフヘルス店従事、過去に個人で）

<経歴等>自分を表現する言葉は、真面目な話をするときには、トランスジェンダー、MtF、GIDという言葉を使う。営業的なお仕事のなことになると、オカマを使ったりする。

SWの仕事をするきっかけは、勤務してたIT企業に女性の格好で入社したら、他社さんとかの目もあるので、やめてください、と言われて、ちょっと私の中で納得できなくて、どうしようかと悩んでいる時に、二丁目に遊びに行き、やっぱり私こっちのほうが楽しいと思って、それで、会社を辞めたこと。ネットで、ニューハーフヘルス嬢のそういう紹介サイトがあって、そこからメールで応募。現在、20人くらい所属している店に在籍している。お店に待機する形。基本、個室があるが、そのホテルとか自宅の場合は、自分から行く。個室使用のほうが多い。

性行為は、フェラチオ、ファック、逆アナルファックなど。コンドームの使用は必須。コンドームつけないで求められても、全部断る。フェラでは全くつけない。

検査は、月に1回、多いときは2回クリニックへ。HIV、梅毒、クラミジア、淋病、C型肝炎など基本的なものは網羅しているものを受ける。今まで、感染症の経験なし。

20歳くらいから半年くらい、経済的に困っているときにネットを通じて、個人的にやったりしていたこともある。セックスワークはそれ以来。今後、性感染症の知識とかをもっと広げていきたいと考えている。また、LGBTについて学校で教えられるようにしていきたい。

性産業で働いている女性向けの口コミサイト「M」を利用。同サイト運営者s-Aさん（後述）を紹介。

tw-Cさん：20代後半

<立場>トランス男性／セックスワーカー（現在、トランス男性、女性のいる店舗に在籍）／口コミサイト「M」の広告を見て連絡

<経歴等>18歳頃からホルモン注射を始め20歳に海外で手術。性産業は、2018年4月から。トランス女性、トランス男性が働いている店。派遣型。一部、待機の人もある。キャストは30人くらい。最初の面接で、挿入行為は禁止と言われた。オーラルでのゴム使用に関しては何も言われておらず、客は基本なしを希望するので、なしで。ほか、膣も使える形ではあるので、客が手でいじる形。

地方へ出稼ぎに行ったことも2回ある。また、ソープランドで働いたこともある（3日でやめた）。検査は、HIVは、南新宿でできれば月に1回。ほかも、新宿ではクリニックが多いので、2-3ヶ月に1回は受ける。特に受けづらかったことはない。

tw-Cさん：30代前半

<立場>「女装子」／セックスワーカー（現在、ニューハーフヘルスで働いている）／口コミサイト「M」の広告を見て連絡

<経歴等>ネットで、2年くらい前に、女装したい人を募集している投稿を見て、応募して女装を始めるようになった。

普段は女装をして働いていて性的対象は男性。店での性行為は、フェラチオ、アナル。フェラチオではゴムは使わない。アナルではコンドームを使う。

普段、女装しないと「いかつく」見られてしまい、女性に敬遠されるが、女装すると女性と話せるようになるのが嬉しい。女装することで自分を解放できた感じがする。ヘルスの仕事も楽しく感じている。

tw-Eさん：20代前半

<立場>体の性別は女性、性自認は女性でも男性でもない／セックスワーカー（現在、エステで働いている、「レズ風俗」で働いたこともある）／口コミサイト「M」の広告を見て連絡

<経歴等>女性の体で生まれて女性として働いているけど、性自認は女性ではない。もともと男性になりたかったけれど、男性向けの風俗で働くようになり、男性もいやだと思うようになった。

性産業で働くようになって1年くらい。今は「エステ」で脱ぎなし。裸になるオプションがある店にもいたことがあるが、服を脱ぐけれど性行為的なものはなかった。

禁止されている行為を求めてくる客がいても、断っている。そこで断れるのは、自分の思考回路が女性側じゃないからだと思う。

「レズ風俗」で働いていたこともあり、他の人にはレズビアンと説明するが、女の子同士で付き合っているというイメージは少ない。「レズ風俗」で働いていたときは性感染症の検査を受けていた。店からの指示もあって。「レズ風俗」での行為内容は、ヘルス同じ感じ。一緒にお風呂に入って、オーラルセックスもあって。女性の体で生まれて、女性として働いているけれど、女装している、という感じがしている。

tw-F さん：20代

＜立場＞女装／ネットでサポ募集／掲示板でインタビューへの協力を依頼

＜経歴等＞大学に入り一人暮らしを始めたことをきっかけに自宅で自分一人で女装をするようになった。体は変えていないし、ホルモンも打っていない。女装だけ。女装の人がよく使う掲示板でサポ募集を見て、半年前くらいから自分でもサポ募集をするようになった。性風俗で働いているわけではないので、自分は、セックスワーカーとは思っていない。週に1回くらい募集する。だいたい毎回1人くらい会うが、出会えないこともある。

連絡をくれる相手は、30代後半から50代の人。行為は、フェラチオを相手にしてあげると、アナル。たまに逆アナル（挿入側）も。フェラチオではゴムを使うことはない。アナルも、掲示板では一応「セーフで」と書くけれど、相手がなしで入れようとしてきたら、そのまま受ける。自分もそのほうが興奮するので。でも、逆アナルは使うことが多い。

病気のことは心配になることもあって、半年に1回くらいHIVと梅毒の検査に行き、その度に緊張するけど、陰性で安心して、また生でやってしまう。今は、バイトだけでは金も足りないし、しばらくは続けると思う。

【サイト運営者】

site-G さん：30代

＜立場＞異性愛女性／元セックスワーカー、セックスワーカーのロコミサイト「M」の運営者

（注：彼女の運営するサイトは、基本的に異性間の性風俗で働く女性のセックスワーカーであるが、今回、トランスジェンダーのセックスワーカーのインタビュー協力者を募集するにあたり、広告掲載協力を得た。同募集により応募してきたTG-SWは3名であったが、彼女の運営するサイトは、今後、非トランス・異性間のセックスワーカーも含め、セックスワーカーへアプ

ローチをしていく上で重要なリソースになるものと思われる）

＜経歴等＞ほとんどの性風俗の業態は経験している。AVも経験している。現在は引退して、家庭におさまりつつ、性風俗店で働く人たちが情報共有できるロコミサイトをつくって、運営している。

自身が、性風俗店で働かなかで、嫌な思いをすることが多かったことが、このサイトをつくる動機。始めて1年半になる。

働いている人たちが、店舗への評価をおこなう。5項目に分かれており、「バック」というお金のこと、「回転率」、どのような系統のお客さんが多いかという「客層」、お店で働いているスタッフさんはどういう人たちなのかという「スタッフ」、備品や、店舗自体が汚いとかに関する「環境」。

会員は7千人を超えていて、月間アクセスは70万。今は基本女性が対象でニューハーフの人なども入っている。今後、男性同性間のお店のことも考えたい。

D.考察

1. 先行研究レビュー

（研究結果に統合）

2. 形態の把握と分類

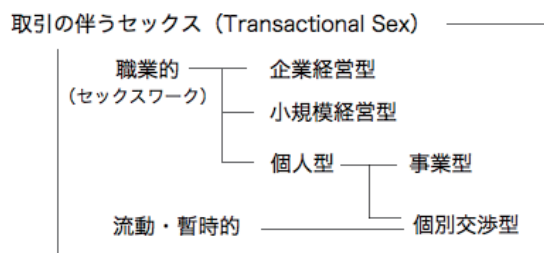
ゲイ／バイセクシュアル男性向けインターネット情報サイト「G」に基づく二つの分類「売り専・出張」「マッサージ」が、実態把握の際には十分に機能しないことは、C.結果において触れた通りである。

では、MSM-SWのHIV/AIDSの感染リスクに関する状況の把握や、健康リスクの低減を進めるためには、どのような軸での分類やそれによる性質の把握が考えられるか、上記の研究結果を総合的に参考にした上で考察したい。

そのためには、さらなるフォーマルインタビュー調査を進めることが必須であるが、今回は、それぞれの店のサイトに掲載されている情

報と、フォーマルインタビューとインタビューの内容を合わせて、三つの視点による分類を仮のものとして提示したい。その分類軸は、今後のインタビュー調査に基づいて検証、精緻化していく。

まず、SWの環境や性質を左右する大きな要因として経営の型による分類を挙げる。



ここでいう企業経営型というのは、いくつもの支店を持って経営している形態を指す。なかには、支店という形をとらずに、全く異なったコンセプトやイメージを提示して複数の店を営んでいる企業もある。それらの店では、数十人のスタッフを抱えている。一方、小規模経営型は、4-5人のスタッフを抱えて業務をおこなっている店舗のことを指す。個人型の事業型とは、1人でおこなっているものの店舗をかまえたり、出張のみでおこなっていても、サイトを立ち上げて安定的に事業を続けているところを指す。個人交渉型は、インターネットの掲示板などを通じて客を求めたり、掲示板にセックスの相手を募集している人に対してメールを送ることで営業している人のことである。

経営の型で分ける意味は、企業経営や小規模経営の場合、経営者の方針が従業員の仕事における性行動を方向付けるからである。また、客に対してもあらかじめ条件を提示することで、HIV/STIのリスクをコントロールすることが可能となる。

一方、個人型は、基本的には自分自身で性行動の内容を決定できる。しかし、あらかじめインターネットサイトなどで、提供するサービスの内容を明示（あるいは暗示）できる事業型と

異なり、掲示板でのやりとりなどを通じて客を見つける個別交渉型は、客との力関係がどのように左右するかによって、行為の内容が大きく異なるであろう。

そして、Dさんのインタビュー内容から、個別交渉型にも、職業的におこなっている人と、貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている人がいることが浮かびあがっている。「貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている」と考えるのは、Dさんが出会った3人がいずれも、かなりの少額を、「できれば」あるいは「貸して」という表現で求めていることだ。彼らは、困窮している状態をしのぐために、リスク・テイキングをおこなない、それにより金銭の授受を求めていることが推察される。

なお、今回、ストリートで客を求めるMSMにはインタビューできなかったが、その背景を考えると、彼らも流動・暫時的なタイプとして健康リスクにさらされている可能性がある。

2017年におこなわれた、日本でゲイ向けの出会い系アプリを用いた調査(N=6921) 27)では、「これまでにセックスをすることで金銭を受け取ったことがありますか？」という質問に対して、「過去6ヶ月間にあった」と回答している人が4.1%、「6ヶ月以上前にあった」と回答している人が18.6%、合わせて22.7%の人が経験ありと答えている。これだけの多くの人たちが、職業型セックスワーカーとして働いた経験を持つことは考えることは難しいことから、流動・暫時的な形でのMSM-SW層の多さを示唆する結果と言えるだろう。

他の型のSWでは、今回聞き取った範囲においては、リスクの高い行為の話はでなかったが、インタビューとインタビューの対象者が限られていたため、判断を下すことはできない。また、インターネット上での調査では、個人営業型でコンドームなしのインターコースを選択できるサービスを提供しているところもある。

ただし、「仕事である」という意識が、5

HIV/STI の予防行動を遂行することに結びついていることは、今後、MSM-SW の健康リスクを低減していくための方法を考えていく上で示唆的である。

また、職業的な型は、MSM-SW が仕事をする際の動き型をもとに、さらに次のように分類できる。

職業型				
店舗型		派遣型		無店舗 個人行 動
自前個 室	外出	事務所経由	直行直 帰	

店舗型の自前個室は、客が店舗に来訪し、その店の個室でサービスを提供する形式であり、「マッサージ」という名前を掲げているところには、そのような形式をとっていることが多い。

外出とは、バーの形式の店舗があり、そこにいる「ボーイ」を指名して連れ出すものであり、ゲイ/バイセクシュアルコミュニティで「売り専」というと狭義にはそのようなスタイルの店を指す傾向にある。外出が基本ながら、自前個室利用も可能という複合型もある。

派遣型は、インターネットを通じて客が指名する形だが、いったん事務所を経由して客のもとへ赴くタイプと、全く事務所などに寄らずに客のもとへ直行し、終了後も直帰するタイプがある。

これらの型の分類は、MSM-SW 個人に、HIV/STI などの情報をどのように流通させるかを検討する場合に有効と思われる。

そして当然ながら、おこなわれる性行為によっても、大きく次のように分けられる。

ヌキ有り		ヌキ無し
インター コース有	インター コース無	マッサージの み

「ヌキ無し」は SW に含まれないと考えるのが通常ではあるが、隣接領域であり、絶対に「ヌ

キ無し」から、場合によってはあるというところもあり、視野に入れておく必要があるだろう。

また、この分類の中では明示できなかったが、インフォーマルインタビューからは、AV 業界が他の SW の領域との行き来があることが明らかになっている。今後、AV 業界も SW の一つとして位置づけて考えてく必要がある。

3. 都内 MSM 向け性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算

今回リスト化した 311 軒のうち、個人自営（一人でサービス提供をし、自身で経営もおこなっている）事業者が、65.9%を占め、軒数としては大部分を占める。

こうした個人自営は、ホームページ上では、マッサージ提供のみをサービスとして掲げている事業者が多い。こうした事業者の中には、実際に全く性行為を提供していない事業者も含まれるが、2 のインタビュー調査からも明らかのように性行為の提供を含むことが多い。よって、ここでは仮に性産業のカテゴリーに入れ、そこで働く人も MSM-SW の算出に含めている。

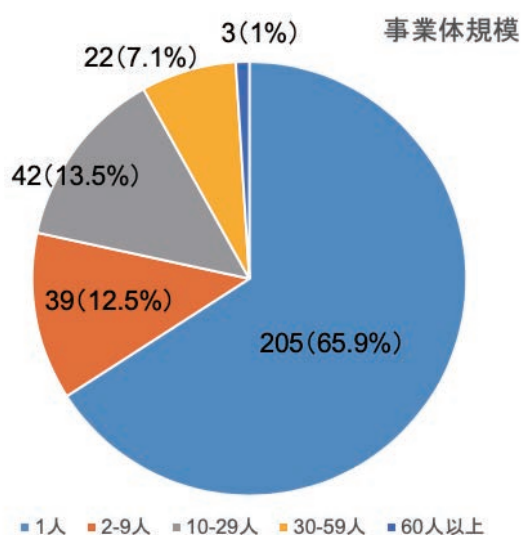
リスト化した事業者で働く MSM-SW の総数 2,478 人のうち、最大の人数を抱える事業者における従事者数は 182 人となっている。次いで、133 人。3 番目が 70 人となる。上位 2 つは、都内にも多数の支店を抱え、全国の都市部でも事業を展開している、ゲイの企業としては最も大きな企業の 1 つとも言える。この上位 3 つの事業者で都内従事者数全体の 15.5%を占める。

なお、小中規模で働く人たちの年代は多様だが、こうした大規模店で働く MSM-SW のほとんどが 18~20 代中盤である。年齢は若く表示していることもあり正確ではないが、基本 20 代と考えて間違いないだろう。

また、インタビュー調査からは、働き始めたものの数日で辞める人もおり、経営者は（特に

大規模店では) 毎月 20 人ほど雇用しなければまわらないと経営者が語っていたことから、ある地点で算出する人数よりはるかに多くの人が、MSM-SW の経験をしていることになる。

さらに、性産業従事者には、こうした調査にはカウントされない、サイトを持たず、掲示板に書き込み、やりとりする形態で個人でおこなっている人(流動的・個人交渉型)もいることも重要であり、2 のインタビューで見ると、こうした層こそが、もっともサポートが必要とされていることも明記しておきたい。



4. A 型肝炎流行に関する情報発信への協力依頼をきっかけとした関係づくり

協力要請をおこない、反応のあった 15 軒中、1 軒は大規模店、1 軒は小規模店、残りは全て個人自営であった。

そのうち、パンフレット配布への協力承諾の 8 軒のうち 1 軒は、小規模店、残りは全て個人自営の事業者である。

こちらから送信した協力依頼への返事には、いかに HIV や STI 感染症に気をつけた行為をしているかということを強調する内容や、性産業よりもハッテン場での性行為や、意図的、選択的にコンドームをつけないアナルセックスを盛んにしている人たちが問題ではないかという内容が見られた。

MSM を対象とした性産業が、MSM の性的な環境全体の中でどういう意味を持っているのか、広い文脈の中に位置づけて解釈する必要性があると言えるだろう。

5. MSM-SW の置かれている状況の把握 (インタビュー調査)

2018 年度、2019 年度のインタビューデータから、「性行為の内容と予防」「店舗の役割」「非予防行動」「客層」「MSM-SW の階層差と多様性」に関連した内容を抽出し、考察を加えた。

また、売り専経営経験者 mo-D さんのインタビュー (2019 年度実施) から聞かれた、HIV 陽性とセックスワークに関する重要な提言を最後に記している。

以下、引用記述内における () は、会話中の調査者 (=インタビューアー) による発話であり、【 】は、調査者による補足説明である。

性行為の内容と予防

男性同性に性的サービスを提供する店舗においておこなわれる性行為の内容に関して、2018 年度のインタビューから次のような語り聞かれ種別による性行為の違いが明確になっている (なお、性的サービスを提供しないマッサージのみの店舗も少なくない)。

アナルセックスがある業態は売り専であるが、全体としては、コンドーム使用が前提になっている。しかし、フェラチオでは種別の違いにかかわらず、コンドームが使われることはほぼない。

<種別：マッサージ>

・mw-J さん

マッサージはもちろん、無料で手で抜いてあげるくらいですね。メンズ専用なので、そういう方がみなさん来られるというか。一応、予約確定したら、メールで、希望者には手で、ハンドリフレッシュという形ですけど、不要な方は

おっしゃってください、と。ほとんどの方が希望されます。ハンドリフレッシュまでとなっても、来られない方もいらっしゃいます。

それ以上のことも。でも、それはお断りしています。(無理強いしてくる人に対しては?) 笑ってごまかすしかないんですけど、ハイって【押しのけるそぶりを見せる】。

・mw-Gさん

(提供するサービスは) オーラルですよ。ホームページ上では、抜きありとはうたっていないので、マッサージメインと思っているんですけど。マッサージだけの人もいるけど、1割いないくらい。まあ、両方気持ちよかったらオッケーみたいな感じですかね。

・mw-Hさん

(性行為はどこまで?) それもまた、なりゆきなんですよ。ほんとに、ただ抜いて欲しい人と、タイプとか、お互いあると思うんですよ。ちょっと...と思うと、手で抜くだけで。でも、フェラチオをすることもあった。そのときはコンドームは使わなかったですね。

・mmw-Iさん

(アナルセックスは?) 自分自身は生でやりたくないの、セーフで、という感じでやります。お客さんも、特にそれに対して、いや生がいいって言われるのは本当にまれですね。無理強いしてくる人は全くいないですね。

<種別：売り専>

・mw-Jさん

(提供サービスの内容として) アナルセックスの感度をあげたりとかが、メイン。一応、お店としては、手袋とゴムは必須。で、お店としては、キスは一応断っているけど、一応、現場で希望があったら、臨機応変に対応してくれていいです、と言われてます。

・mp-Oさん

シャワー浴びて、フェラチオ、挿入。相手は(自分に対して) フェラをしない。相手はケツ舐めをするから、いいのかなあ? と思ってた。向こうが自分でコンドームをつけて挿入する、みたいなの。つけなくちゃいけないと言ってた。

・mp-Nさん

僕が行ったところでは、コンドームをつけるというのは当たり前の感じになっていて、流れ作業の感じ。向こうが用意してくれたコンドームを自分でつけた。

・mo-Mさん(経営者として)

フェラチオに関しては、どうしても、ゴムつけてっていう方はそんなにいないことが多いです。で、アナルセックスはもう必ず、ゴムをつけてください、って。M、Lのサイズをちゃんと置いてあるので。

(アナルセックスでコンドームを使うというルールは) 守られてる感じですか? そうですね。大半は守られてると思っているんですけど、話ちゃんと聞きながら、ヒアリングしながら、毎回終わったら、とか、やってるんですけど。ま、もしかしたら、というのはありますよね。

・mo-Mさん(自身がSWだった頃の経験として)

【予防行動自体はどんな感じでした? コンドームは必ず使えるのか...】それは、必ずでしたね、100パーセント。(そのときに、お客さんが結構拒むということもなく?) あー、ひとりだけいたんですけど、それは、拒んだら、そうですね、「おかしいな」って言ってましたね。(笑)。違うところでは、できた、ゴムつけなくてもできたって言って。【そういう、できてしまうときもあるってことですね】 そうですね、ボーイさんによって。

こうした、アナルセックスではコンドーム使用傾向が高い傾向にあることは、2019年度のインタビューでも同様に聞かれている。

・mo-Cさん

(じゃあ、アナルまであるってことは、その例えばサイトとかに予防について書かれたりとかは) そうですね。ちょこっと書いていたけど、今はコンドーム前提ですからね。

ちなみに、こうしたコンドームの使用の状況に関して、Cさんは、ここ20年ほどに大きく変わったという。

・mo-Cさん

(例えば予防できなかったとか、あるいは無理強いされとかそんな話はあったりするんですか) 最近は何もないですね。(以前はあった感じ?) たまーに、やっぱりありますね。薬物すすめられちゃったとか。とか、生は減りました。減りましたっていうか、僕がマネージャーやり始めてから、あんまりないですね。(略)

僕がボーイの頃使うと、え、って言われたんですけど、ちょうど20年くらい前なんですけど、お店のマネージャーに、僕コンドーム使いたいんですけど言ったら、「いや、お客が使いたかったら使っていていいよ」っていう風に言われてた時代なんで。たぶん、地方、地方はってことはないよ。あれは2000年くらいなんですけど

非予防行動

しかし、こうした店側がコンドーム使用の姿勢を打ち出し、ボーイに求めている、実際のコンドーム使用に関しては、当然ながら、現場の関係性などに依存する部分も大きい。Aさんは、10代の終わりから勤め始めた大規模店にいる頃に、コンドームを使わないこともあったという。

・mw-Aさん

(使えないなあ、ということはありませんか。) 通いつめてるお客さんとかだったら、断るに断れないってことはありましたね。(どち

らかと、強引というよりは、常連とか) そうですね、そういうことですね。

(そういう流れの中で病気のこととか心配なったりすることは?) ありますけど、僕は、いわゆる検査は定期的に受けてる人なので、ありましたけど、ある程度、自己申告を信じてしまう部分がありましたね。

(お客さん側の、ってことですよ?) そうですね。(じゃあ、なんとなくそういう確認があつたりもする) そうですね。

コンドームを使わないことについては、2018年度のインタビューでも様々な話が聞かれた。

・mw-Iさん

(客から、アナルセックスで、コンドームを使わずにやりたいという要望は?) 結構あります。実は、いろいろ遊び慣れてる感じの人は、やっぱり。3割くらい。正直いうと、生のほうが好きというか、やっぱり、コンドーム使うと痛いので。生のほうが気持ちいいといえば気持ちいいので、まあ。でも、リピーターの人のコンドーム使わない人はいないですね。安心して何度でもできるというのはあるかもしれないですね。安心してほしい、という。

・mp-Nさん

お尻をやろうとしたときに、自分がつけようとして、なんかそのままでいいよ、というモーションをかけてきた。でも、「つけた方がいいっすよね」と言ったら、「うん」と言ったので、なんか人によって、つけてもいいし、つけなくてもいんだなという感じでした。最後、じゃあ、終わりますってなったときに、結構わりと、お腹の上に出すとか場所をコントロールしようとするんですけど、口の中っていう感じにして。飲み込むのもあれだからと思ってテッシュでしたら、うーん、なんかわかってないなあ、という感じだったような。そういう嗜好もあるだなあ、と思った

・mo-Lさん

ゴムをつけなさいといって、出張に行くときには、ゴムとローションは持たせてる。あ、フェラに関してはゴムはつけるとは指導してなくて、むしろつけるな、ぐらいな感じでやっているけれども、バックに入れる、入れられるに関しては、ゴムは持たせています。中で、本当にゴムをつけてるのか、つけていないのか、というのは、正直、つけてね、という指導どまりですよ。//でも、ここ5年くらいは、むしろ若い子たちは、お店がつけろといっても、もうタイプだったらつけなくていいやぐらいな感覚で。それをなぜ思い出したか、というと、A君はつけなくてもやらしてくれたのなぜ君はやらしてくれないの、っていう風にお客さんから言われた場合は、どう対応したらいいですか、という相談を受けたときがあるので、つけてない子もいるだな、という風に。

・mo-Mさん

お金が欲しいから働いてるっていう人と、お金プラスセックスしたいから働いてるっていう人がいるんですよ。だから、ゲイの方とか特に、お金プラスセックスしたい、で、タイプの人が来たら、たぶん、生でやっちゃうとかいうひともいると思うんですよ、中には。お金だけの人はきっちりしてる。

店舗の役割

上記の引用からうかがい知れるように、コンドーム使用に関しては、当然ながら個人の指向／嗜好が影響する。しかし、店に所属し、働く場合には、店の果たす役割は大きい。

・mw-Aさん

【10数年前に大規模な売り専で勤めたときに】初回は研修というか、初めてお客さんに着く前に、カラオケの歌本みたいな厚さのマニュアルが。ほんと、保健の授業で習うような一般的な

内容と、あと、お尻が使えると言った子には、お尻の洗い方と、あとコンドームの使い方か。（じゃあ、基本はコンドームは使いましょうという前提の教育が）そうですね。

コンドームの着用義務はアナルセックスのときだけ。（それはかなりきっちりしている感じ？）そうですね。

（お客さんも特になしで要求したりはしない？）いや、もちろん、お客さんからの要求はあるんですけど、基本的に、まともなボーイさんだったらですよ、そういう発言された段階で、途中で切り上げて帰ってきて、こうこう、こういうことを言われました、と言ったら、出入り禁止になったりとか、そんな措置はとって。

（店側としては、アナルに関しては、使いましょうというのは厳密というか）かなりこっぴどく言われてましたね。

教育という意味だけでなく、TG-SWに関する考察でも指摘したように、店側の客の管理という意味でも店舗の役割は大きい。

・mo-Cさん

よっぽど言ってくる人っておかしな人なんですよ、たぶん、他の店にも通達がいっちゃうような人ですね。（無理強いするような人はってことですよ）そうそう、あつという間に排除されちゃいます。

さらに、店側が果たせる役割という意味では、Cさんの店舗でおこなっているB型肝炎のワクチン接種料金の負担は、性感染症の予防方策の一つの好事例と言える。

・mo-Cさん

B型肝炎のワクチンだけは、全額お店側が負担してるんですよ。（省）これは、下手すると、下手するっていうか、人生にかかわる感染症

なんで、死んじゃうとかっていう話になっちゃ
う。うちもそれで入院費用出すわけにいかない
し、ごめんなさいですむ問題でもないし、ま
あ、責任逃れに近いんですけど、金が少々かか
っても、嫌な思いをお互いしたくないんって
いうんで、入ったら受けろって。

先の、非予防行動の語りに見られたように、
コンドームの使用に関しては、客との間に生じ
る親密感、身体性や性格なども影響する力関係
などに左右される部分はあるものの、店舗で所
属し働くことは、客からのコンドームなしの要
求を断りやすくなると言えるだろう。また、そ
れと同時に、元々の自身の性感染症予防への意
識にかかわらず、アナルセックスではコンド
ームを使用しなければならないという規範に身
を置くことでもある。

・mw-Aさん

(まわりのボーイの予防の状況は?) 病気そ
のものを予防しようっていうよりも、お店のル
ールだから守る、みたいな。ある意味お店がき
っちり出してるから、一応それを守りましょ
う、みたいな感じはやっぱりあったり。

逆に言えば、店舗に所属せずにサポなどの形
で個人で行う場合には、当然ながら、そうした
集団的な規範の枠に入らないことになり、客と
の力関係、本人の置かれている環境と、おそら
くそうした環境との関連も強いであろう、本人
の「予防意識」がより強く影響することになる

・mw-Bさん

(掲示板でサポ相手を募集するようになったの
はいつからですか?) 1年半...あ、2年前ですね。

(行為自体はどんな感じですか?) まー、フェラ
チオしたりされたり、ケツはリバだけど、ウケす
ることのほうが多いかな。

(その時コンドームは使ったりします?) うー

ん、使ったり...使わなかったり。(使うときと使わ
ないときの違いってありますか?) 流れ? ウケの
ときは相手任せな感じで。(使うのと使わないの
どっちが多い) 正直、使わないことのほうが多い
ですね。

(タチのときはどうですか) うーん、どうかな...
相手によるかも。(どういう相手なら...) ちょっと
危ないかな、って思うとつける感じで。(ちなみに
危ないかどうかは、どこで) 雰囲気ですかね。

Bさんは、大規模な売り専で働いていた経験も
あり、そのときのことに関しては、「ゴムはフェラ
では使わなかったけど、アナルでは使った。店か
らつけるように言われてたし」と語っている。

こうして、店舗型では、アナルセックスでのコ
ンドーム使用が前提とはなっており、おそらく仕
事の継続性も考え、予防に気をつけるボーイが多
いことが、この3年間のインタビュー調査では語
られてきた。しかし、それでもなお存在する、HIV
感染リスクに関する、売り専の経営の経験のある
Dさんの次の指摘は重要である。

・mo-Dさん

(性感染症の予防に関しては比較的安心って
ことですか? ボーイの側を守るという意味で
も、安心できる...) でも、まあ、守りきれてる
かっていうと、僕はわかんない(略) たぶん、
守りきれてはいないと思います。頻度高まりま
すから、やっぱり。

この発言は、コンドーム使用の決まりが必ず
しも守られるわけではないことだけでなく、フ
ェラチオではコンドームを使用しないため、
HIVに関しては感染可能性が低くとも、その行
為を繰り返すことによるリスクについてで
ある。この問題は、この考察の最後に記す、
HIV陽性後のセックスワークに関する彼の提言
につながっている。

客層について

MSMの性産業の客層については、2018年度のインタビューでは、ゲイコミュニティへアクセス度の低さが聞かれたが、新しい傾向として、2019年度には、海外からの客のアクセスについて語られた。その背景には、海外からの客を仲介する人の存在もあるようだ。

・mo-Cさん

最近、海外の方多い。中国系の方が圧倒的に多いんですけど、台湾、香港、中国、台湾からです、香港からです、と名乗る人もいる。

面白いのが同じ名前のお客さんがすごいたくさん指名するんで、おかしいな、って思ったら、ボーイが行ったら全然違う人なんですわ。

(仲介屋さんだった) そうそうそう、あれ、みたいな。(そんな商売の仕方が? 商売でやるかわからないけど) 商売でやってそうな気がしますね。最初はパラパラだったんですけど、すごい頻度が高い。

ゲイ/バイセクシュアル男性のコミュニティ、ネットワークにおいて、東アジア内での移動が活発になっているが、国の枠を超えた形で性感染症の問題への取り組みが必要となっていると言えるだろう。

MSM-SWの階層差と多様性

これまで、本研究では、MSM-SW内の多様性と、階層差の問題を強調してきた。ここでいう階層とは、経済的な問題だけでなく、生活をコントロールする力の習得なども意識した表現である。2018年も2019年も、特に若くして売り専で働き始めるボーイたちに、様々な困難さを経験しがちであることがうかがえた。

・mo-Lさん

この仕事をして、性病というくくりにおいて、不幸にさせたボーイはいないかな。今のと

ころは、ただお金に関しては、いったん、もうこの道に入ると抜け出せなくて、いつまでもやめられなくて、みたいな、日銭が入るから、日銭を持ってギャンブル行っちゃったりとか、いうくせ、そういう不幸な面はあるけれど。

・mw-Aさん

今まで、語弊あるかもしれないけど、貧乏育ちの子でも、1日で10万、20万、一瞬で手に入れることもできたりするので、使い方もわからない状態で多額の現金を渡されると、そのまま崩れてしまったという子もいますしね。

【Dさんが売り専を専業としなかった理由を尋ねた質問に対する返答として】一緒に待機してる子をみていて、ほんとうに染まっちゃってる子とかいるんですね、業界に。となると、自分もそうなっちゃうんじゃないかな、って、その(染まってるっていうのはどういう感じですか?) なんていうのかな、明らかにお金の使い方が派手になっていったりとか、もう朝方まで飲んで、待機室で寝て。(略)

保険証をもっていない子たちとかもいるんですね。たとえば、ほんと家出状態で出てきて、そのままお店の寮に入っちゃった子とかは。ほぼ、ホームレス状態の子もいるわけですよ。となると、毛じらみもらって、ゴキジェットで殺してる子とかいたんですよ(笑)。確かに殺虫剤だけど。でも、病院とか行けないとか。

(いろんな知識がないままそこにくるもいて) そうです。あとなんか、正直その、お金の使い方とか、社会性の問題もあると思うんですけど、結局、そういうところからアプローチしないと、生き方が。【売り専で働き始めるのが】はやいのかな。

店に所属せず、個人でやりとりするSWは、さらに厳しい状況に置かれがちである。

・ms-Pさん

【ホームレス状態で売ってる子、生保を受け

てる子などが、HIVに関して】感染するしない
ということをもまず考えないですよ。むしろ、
もう自分感染してるじゃないかと思って、その
まま、でもとりあえず飯を食っていかなくちや
いけないから、という感じでやる子の方が多
い。最近になってうちに相談に来るのは、生保
受けてる、もと路上の子？就労意欲もないし、
学校も行ってないから、生活保護のお金使い切
っちゃったら街に出てとか。なんだろう、家で売
ってるみたいな子も多く。世の中のことなんに
も知らずに、ただ、部屋、居宅保護されただけ
だから、仕事の探し方もわかんないし、お金の
コントロールもできないから、あと、依存があ
ったり、ドラッグが、とかいろいろあるから、
保護費おいたら、その日に全部パチンコに使
っちゃうとか、って結構いるし、うん。そうそ
う、だから、なんだろう、そういう子のサポ
ートが必要なんじゃないかなあ。

HIV 感染後のセックスワークについて

今回、mo-Dさんには、その過去2年分を、売
り専の経営経験のあるDさんにあらかじめ読んで
もらい、その感想も含め、今後への提言をうか
がった。

その中で、特筆し取り上げるべきテーマとし
て、HIV感染後のセックスワークがある。彼が
そのことについて発言する背景には、Dさん自身
が売り専を経営する中で、ボーイがHIVに感染
したこと、何人かHIV陽性のボーイに相談を受
けた経験がある。ボーイのHIV感染について
は、昨年度、別の経営者のインタビューにおい
ても、「多くはない」という強調としてではある
が、言及されていた。

アナルセックスでのコンドーム使用傾向が高
いといっても、先のDさんの感染リスクについ
ての指摘にあったように、中規模、大規模の売り
専では、当然、ある程度の確率で起こりうる。

昨年の経営者のインタビューでは、感染した
後、セックスワークについては辞めてもらった

という発言であったが、今回、Dさんが問題提起
するのは、その後、セックスワークへ復帰でき
るようにすべきというものである。

・mo-Dさん

(提言を出していくんですけど、必要なこ
と、思うことありますか?) 陽性者の人の参加
ですね。セックスワークへの。今、あれです
ね、治療したら人にうつさないですね。(感
染しても、治療がすすんで、検出限界以下にな
ったらそこで働ける環境をっていうこと?) そ
うですね。実は、隠して働いている人もいるの
ではないかと。(略) これ【過去2年分の報告
書】読んで思ったのは、みな割と【その問題に
ついて】黙ってますね。(略)

(経営者とかに聞くと、やっぱり、感染し
て、僕はほら、検出限界以下になったら感染さ
せないけど、感染した場合のことどう考えます
か、と聞くと、やっぱり働いて欲しくない、み
たいな) でも、ほんとうなら、そういう人【投
薬によりウイルス量が検出限界以下になった
人】だと、感染させることも、HIVに関しては
感染することもないから、経営者としていいは
ずなんですけどね。(略)

「ウイルス量がゼロになるまで、休んで」と
いうことができるといいんじゃないかと。陽性
者も働けると思ったら気兼ねなく半年くらい、
みんな休んでくれるんじゃないかなって思うん
です。そうじゃないと、検査も受けづらくなっ
てしまう。特に、売り専というかセックスワー
クの収入に占める割合の高い子の場合。戻っ
て来られるというほうが、検査も受けやすいし、
店側にも伝えられ、お互いに良いと思うんです

近年、20年以上の研究結果に基づき、血液中
のHIV量が検出限界以下になれば、HIV陽性者
から他の人にHIVが感染するリスクは無視でき
ると言われており、U=U (Undetectable =
Untransmittable) という表現を用いて、その事

実に関する認識を広げようという動きもあるが、その立場に立つならば、Dさんの提言のように、HIV陽性者のセックスワークについて支持的に語らないと矛盾が生じる。

そして、そうしたHIV陽性のセックスワーカーにとって、HIV以外の性感染症の検査が受けやすくなることはとても重要である。

・mo-Dさん

性感染症、HIVの検査とセットになってる無料検診が多いです。だから、HIVプラスになっちゃった人が、それ利用しにくいという話をしまして。バラバラのオプションでやりたいって話は聞きますね。

(HIVで診察を受けている病院でも、医師との関係で定期的に性感染症の検査を受けづらいこともあるでしょうね) そうだと思います。

HIV陽性者も働ける、働いているという前提が共有され、それを前提とした環境ができていくなれば、HIVの感染は確認されていない人はHIVの検査を受けやすくなり、また、HIV陽性者も他の性感染症の検査を受けやすくなることだろう。

6. 全国のTG-SWが働いている性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（インターネット調査）

リスト化したTGが在籍する性産業事業者のうち、専門、混合のタイプの事業者が、サイト上で、客に対してどのような性感染症予防を求めているかを調査した。このことが重要なのは、後のインタビューの考察でも触れるように、店舗側が、どの程度コンドーム使用などを客に明確に求めるかが、TG-SWが客に対してそのことを強く求められるかを左右する要因の一つだからである。

多くの業者が、「禁止事項」「注意事項」「利用規約」などの項目内で、そうした条件を客に求

めている。ここで、女性主体の事業者を除いたのは、女性主体では売春防止法との関係で本番（膣性交）を禁止しており、そのため、本番で使用する事が前提とされ、本番行為がある証拠とされることのあるコンドーム使用について、そうした項目内で記すことが避けられているためである。

しかし、そうした店でも、所属するTG-SWのプロフィールには、「アナルファック」（アナルセックスでTG-SWが挿入されること）や「逆アナルファック」（アナルセックスでTG-SWが男性客に挿入すること）がサービス内容として提示されており、法的な位置付けと、性行為における予防行為の必要性との矛盾が現れる形となっている。

性感染症予防のために客に同意が求められていることは、基本、次の四つに集約される。1. アナルセックスでのコンドームの使用 2. 口内射精の禁止 3. アナルを舐める行為の禁止 4. 性病等に感染していると思われる症状がある場合に断ることがあることへの承諾。

それらの記載のある店舗数と専門型・混合型の総店舗数における占める割合は下記の通りである。

	コンドーム	口内射精	アナル舐め	見た目
数	31	12	14	36
%	37.8	14.6	17.0	43.9

なお、独自のサイトを持っておらず、性産業紹介ポータルサイト上でのみ情報を掲載している店もあり、そうしたサイトでは「禁止事項」などの項目自体がないことが大部分である。

一方、TG性産業において最大規模と思われる、全国に10店舗を構えるある事業者は、上記すべてに関する同意を求めている。しかし、同じ系列点でも、そうした項目がサイト上での掲

示位置が異なり、最初に目に入るように掲示されている店と、分かりづらいところに掲示されている店とがある。まずは、そうした予防意識の高い店舗に、より見やすい位置、あるいはわかりやすい表示を求め、禁止事項などが掲示されていない店舗に改善を求めていくということも、今後検討されていだろう。

なお、中には、明確に「中出し」をサービスとして掲げている店舗もあり、またそうした店舗も含め、「血液検査をおこなっている」ことを「安心して遊べる」と表現している店舗もある。こうして、店側が検査を義務付けることが、リスクの高い行為と結びついていることもあり、検査の位置付けの難しさが示される結果となっている。

7. TG-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）

以下、引用記述内における（ ）は、会話中の調査者（＝インタビュアー）による発話であり、【 】は、調査者による補足説明である。

キャスト（店舗在籍者）について

昨年度までの調査において、MSM-SW における多様性として垣間見えたのは、働き方の違い（個人でやりとりしているのか、店舗に所属しているのか）による健康リスクの違いや、経済的、生活環境の違いという階層差であったが、TG-SW における多様性は、身体の違いや性自認も含めたものであり、その幅の広さが一つの特徴とも言える。

・tw-B さん

（働いている人は、みんなトランスの女性？）えーっと、まだ、みんな「ありあり」だったり、「ありなし」だったり。性転換している子はいないですね。【「ありあり」とは、ペニスと睾丸があること、「ありなし」はペニスはあがるが、睾丸はないことを意味する】

（そういうところでは、性別移行してない人たちが働くという？）そうです。ほんと、職業、「職業オカマ」と呼ばれてる人もいますし、「男の娘」とかもいるし。【あるニューハーフヘルスのサイトでは、こうした用語について次のように説明している「当店では、普段から女性として生活し女性ホルモンを摂取しているキャストを『ニューハーフ』、普段は男性として生活し女装をするキャストを『女装子・女装男子・男の娘』と分類】

（必ずしも性別に違和感がある人たちばかりではない？）そうです、そうです。（割合でいうとどういう感じですか）うちの店は6：4で、6が性自認男で、4が女性だと思います。

（ご本人の性別移行はどの程度？）私はホルモン注射のみです。

ここで、注意が必要なのは、トランスジェンダーという語の使われ方である。

ジェンダー／セクシュアリティに関する研究やLGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア／クエスチョニング）の市民活動などでは、トランスジェンダーとは、完全な性別移行や体の変更の有無にかかわらず用いられる包括的な用語である。

一方、性産業の現場では、先のサイトの説明に見られるように、「トランスジェンダー」という語が使われることは少なく、「ニューハーフ」「女装子・女装男子・男の娘」といった語が用いられることが多い。また、前者は、ペニスや睾丸のあるなしにばらつきがある。しかし、本研究では、包括する分析概念としてトランスジェンダーという言葉を用いている。

性行為の内容について

ニューハーフヘルスにおいて、キャストの性器の変更やホルモン注射の程度は、提供する性行為と密接な関係にある。キャストのほとんどが、身体的性別移行を完全にしていない人、あ

るいはホルモン注射も含めて全く身体への変更をおこなわない人である理由の一つは、客にニーズのある性行為である、1990年代から2000年代にかけて働いていたtw-Aさんも、現在働いているtw-Bさんも全く同様な発言をしている。

・tw-Aさん

基本的には、アナルセックスあり。というか、アナルセックスがメインですよ。ニューハーフヘルスはアナルが当たり前なんですよ。実は、一番客がくるのは、そっちではなく、逆アナルというコースがあって、ニューハーフのほうがお客さんに挿入するという。大概のおねえさんがペニスを残してる人が多いので。玉抜きしてても、残してる人って結構いるよね。

・tw-Bさん

(そこではだいたいどういう性行為がある感じですか?) ファック、逆アナルファックは、もう普通という感じ。(そうなんだ、どちらかというと必須みたいな?) 必須みたいな感じですね。両方できなきゃ、ちょっと売れないかな。

それは、性器を「残す」だけでなく、ホルモン注射とも関係している。

・tw-Aさん

今は結構、あたしらの頃はなかったですけども、やっぱりホルモンを売っていると立ちが微妙に悪いわけですよ。うん、そこでホルモンで打ちながらバイアグラとかを使うわけですよ。

・tw-Bさん

お仕事から、射精したりとかしなくちゃいけないので、やっぱり、そこでホルモン注射を打ちすぎちゃうとできなくなっちゃうので。やっぱりこうみんなコントロールしながら、やってる方多いです。

トランス「女性」もそうしたサービスの提供が求められることの心理的な問題について、Aさんは、「仕事として割り切ってる」という言い方をしているが、Bさんは、そうした状況について、tw-Aさんは次のように語り、メンタルの問題につながる可能性を示唆している。

・tw-Bさん

(逆アナルファックは、自分が女性だという感覚がある人には大変だったりしないのかな?) いや、もう苦痛だと思います。もう私は仕事だと割り切ってるので。(そんなに苦ではない?) もう無に。セックスワーカーをしているときは、もう感情を無にしているの。

また、Bさんは、ニューハーフヘルスで性別を移行した人が少ない理由として、「売春防止法」との関連を指摘している。

・tw-Bさん

性転換してる子でニューハーフヘルスで働いている子がいるっていうのは聞いたことはあるんですけど、やっぱり、売れない。売れないのと、もしそれがバレちゃったときに、入れてる入れてないの話になってくるんですけど、やっぱり、戸籍上は女性になっているので、もうそこは犯罪になっちゃうので、法律的にアウトになっちゃうので、やっぱりあんまりないですね。

この売春防止法との関連は、女性主体の性産業において、女性との膣性交が「本番」とされ表面上禁止されているのに対して、そうした店でも、ニューハーフのキャストはアナルセックスが可能であることが明示されていることにつながっている。

また、逆に、昨年の調査のトランス男性でのインタビューでも聞かれたが、トランス男性で膣が挿入可能な形で残っていても、店舗側は売

春防止法への抵触の可能性をおそれており、挿入行為が禁止されることにつながっている。今回、tw-Cさんも「最初の面接で、挿入行為は禁止と言われている。」と語っている。

性感染症の予防について

上記のように、アナルセックスがあることが前提とされる「ニューハーフヘルス」においての性感染症の予防に関しては、次のように語られている。

・tw-Aさん

基本的には、ちゃんと流し台のところに全員のカップとイソジン系のうがい薬が置いてあって、で、もうフェラは生フェラだから、もうそれはうがいで。で、割と店の方はセーフセックスをきっちりしていて、必ずゴムを使う。（それは結構守られる感じでした？）守られる。うん。

・tw-Bさん

（コンドームの使用は？）必須です。フェラは生でもオッケーなんですけど、入れるときは。（ご自身のときはオーラルセックスのときはどうされてる？）つけてないですね。（全くつけない？）つけない。お客さんがしてくれというときはしませんが。

・tw-Cさん

店での性行為は、フェラチオとアナルファックです。フェラチオではゴムは使わないですね。アナルでは使います。

客とのやりとりについて

しかし、客のやりとりの中では、コンドームなしのアナルセックスなど、店側が禁止している行為を求める客も多いという。

・tw-Bさん

（お客さんで生でやりたいという人はあまりい

ない？）いや、結構います。結構いるんですけど、全部断っちゃう。（断るときに断りづらかったりすることあります？）いや、もうぜんぜん、「エイズになりたいですか？」って言って。

最初は、やんわり断ってたんですけど、あんまりやんわりでも強行突破しようとしてくるから、はっきり言ったほうがいいなと思って。

（じゃあ基本は、店側もダメとは言ってるけども、使わずにやろうとする人たちはいるんだ？）もう全然いますね。（結構いる感じですか？）4割くらい。

・tw-Aさん

知らないうちコンドーム外しは一番こわいのはバックのとき。正常位のときは、見えてすぐに手で止められるけど、バックのときはほんと外されやすいから気をつけないと。バックのとき、必ず自分で手を添えて誘導するような形で。（そういうことをしがちなお客さんはいると）いるいる。

BさんとAさんは、客に対して強い態度でリスクのある行為を拒否できているが、体格差などで、無理強いされる経験を持つSWもいる。

・tw-Cさん

ダメな行為を無理強いしてくる人は結構いる。特に最初の客は。素股のほすが、性器に擦り付けてくる人もいるし、入れてこようとする人もいる。ダメなものはダメというが、力で抵抗仕切れないこともある。

こうした体格差に関して、一見、形態としてはシス女性として異性愛者エステで働いている形になるEさんも不安を語っている。

・tw-Eさん

普段は性感染症、気にならないけど、エステを勘違いしてるお客さんもいるので、急に素股

してきたり、体格差があるので、ひょいと持ち上げられるとどうにもできなくなっちゃうので、そういうのがあるかな、っていうのと。

そして、コンドームの使用に限らず、客側が禁じられている行為をしようとしてくることについての E さんの洞察は興味深い。

• tw-E さん

風俗のお店で変えられる部分って少ないと思うんですよ。男性の思考回路とか、たとえばエステだと私がずっとやっていたところは、抜きなしなんですけど、「抜いて抜いて」とか言われたりとか、今のところだと、素股したりとかフェラを要求したりとか、常に上を要求される。お客さんに、それならこっちのお店にいかないんですよ、って言っても、できるかできないかのところで、かけひきすることが楽しいみたいなことを言われてしまうので。うちのお店は、脱ぐオプションはないんですけど、脱いでくれたら、特別感があって嬉しい、とか、

彼女は、このような客の傾向性について、「風俗のお店で変えられる部分って少ないと思うんですよ」「お店自体が変えるというよりは、お客さんのアレ【思考回路】なので」と語っているが、店舗がどういう姿勢を示すかの影響は大きい。

店の役割について

店舗で働いている場合、店が基本、コンドームなしのアナルセックスを禁じていることが多く、また、その姿勢を強く打ち出すことによって、キャスト側もコンドームを使わないアナルセックスを求める客を拒否しやすくなる。

• tw-A さん

(客からゴム使いたくないみたいなのは、そんなにない?) それは断れるようになっている

ので。(それはお店がちゃんと打ち出してるので?) それはそういうことですね。

• tw-B さん

お店が後ろになるってことは、だいぶ、なんかあっても、ケツ持ちはしてくれるので。ある程度、強気にも出れますし、もうお店自体も、もしなんかあったらすぐ連絡くださいとは言われてる。

逆に言えば、店舗で働かない形の場合には、より危険にさらされることになる。Bさんは、20歳の頃に個人でやっていたこともあり、そのときのことを次のように語っている。

• tw-B さん

(そのときのやりとりの感じでは、性感染症の予防という意味で、また自分のやりたい、やりたくない行為のコントロールはどうでしたか?) やっぱり難しいですね。お店通してないと、お客さんは横暴なので、無理やりやってこようとしたり。(その頃は大変だった?) 私ははっきりいうタイプなので、断るときは断ってましたし、いや無理です、って言って。

また、現在、掲示板でサガ募集をしている F さんも次のように語っている。

• tw-F さん

知り合う人は、だいたい生で入れてこうとしますね。(そのときはどういう風に?) もうそのまま受け入れてしまいます。正直、自分もそのほうが気持ちよかったり、正直、興奮したりも。

この語りに現れているように自身の指向性/嗜好性も大きな影響をもたらしてはいるが、コンドームの使用を義務付けている店舗よりも、コンドームなしの挿入行為が増える可能性があるだろう。

こうした店側の役割に関して、自身は、非ト

ランスジェンダーで異性間の様々な性産業で働いた経験を持ち、性産業で働く人がロコミを掲載するサイトを運営しているGさんの語りは示唆的である。

・site-Gさん

店舗型において、客層がどんだけ大事かっていうのが、受付を通ってきてる人なので、結局スタッフが通しているんですよ。なので、1回でもそういうことがあったら、絶対に女性が愚痴ったり報告してるのに、それでもそのお客さんをまた通してんだ、っていうことになるので、相対的に評価が下がる傾向にあります。

【ここでの「評価」とは、彼女が運営するロコミサイトが、五項目、バック（お金のこと）、回転率、客層（どのような系統のお客さんが多いか、スタッフ（お店で働いてるスタッフさんはどういう人たちなのか、環境（備品であったり、店舗自体が汚いとか）に関して、キャストが評価する形のことを指している。）

（それは店側の管理が行き届いてないってみたいなことになる？）なので、それを許したままずっと通していると、実質、つけない店なるんじゃない、つけるようには言われてるけど、つけない店としてお客さまも通ってるよね、って、言う感じですよ。

（なるほど、なるほど、そうすると、店側がそこをちゃんとするか、によってだいぶ違う？）
そうですね、顧客管理というか。

客層について

Gさんが経験してきたのは、非トランス女性が働く、異性愛者男性向けの性産業であり、ニューハーフヘルスなどのトランスジェンダーの人が働く性産業と大きく異なる位置付けに置かれがちである。おそらく、トランスジェンダーの性産業のキャストとなる人の中にMSM-SWとして働いていた人もいることから、一層そのように見られたりもする。

・tw-A

売り専の子たちに、ニューハーフ系のお店の人たちが声かけてるんですよ。（そうなんだ）売り専の若い子とかに、そっちよりも最低でも3倍は稼げますよ、って。普段の生活は男性として生活していて、お店に来るときだけ女の子してくれればいいから。

しかし、客層との関係から、非トランス女性が働く異性愛者男性向けの性産業との連続性や構造的類似性が高い。なぜなら、基本的に客は異性愛者であるからだ。

・tw-Aさん

（逆アナルを求めるといふ人はゲイとかじゃないんだよね）逆アナル、むしろゲイじゃないんですよ。逆アナルで一番多いパターンは、SM系とかで、SMのお店だと、まあ、他のお店でも結構、アナルを、性感マッサージとかもそうですけど、いじられるんですよ、女の子に、で、アナルの快感を覚えてくると本物を入れられたいという欲求が生まれてくるんですよ（おもしろいねー）、でも、そこからがすごく、変な方向に行くんだけど、ゲイじゃないので、女性に入れられたいわけですよ。（なるほどね）そこでちょうど便利なのが、女に一応見えて、ちんこがついてるのが一番ベストになってくる。

・tw-Bさん

（お客さんはどういう人ですか？）基本、ストレートですね。意外と。まあ、ゲイの方は無理だけど、女性の格好してるなら大丈夫っていう人とか。私は、基本それはストレートだと思っているので。

それは、店舗で働いているわけではないFさんも同様に感じている。

• **tw-F** さん

(相手の人は、どういう人になりますか。性的指向とかってことですけど) ノンケ【異性愛者】ですよ、たぶん。自分もノンケじゃないと興奮しないです。女性のように扱って欲しいので。

このように、主たる客が異性愛者男性であることにより、トランスジェンダーの人が働く性産業は、働く人たちの多様性と MSM-SW とつながりがあるにもかかわらず、基本的に異性愛性産業の文脈にあり、そこで生じる関係性や性行為もその枠組みに回収されがちである(女性を主たる客とする店舗もあり、今回のインタビューでも tw-E さんが「レズ風俗」での経験について語っており、そこではまた異なる関係性も考えられるが、今回の研究では調査対象としていない)。

例えば、トランス男性のCさんは、男性であるわけだが、客がおこなう性行為や、これまで働いた経験について次のように語っている。

• **tw-C** さん

(性行為は?) 膣は使える形ではあるので、客が手で膣をいじってくる感じ。基本、客はヘテロ男性。こちらのことは、女性の派生、のように見ている。女装をして仕事することもある。

地方へ出稼ぎに行ったときに、そのお店の人に、トランスであることを店側には伝えたのだけれど、わかっているのか、いないのか、店側は客にトランスであることを言っていないみたいで、結局、女性として働くことになったことがある。ソープランドでも働いたことがあって、そこは、作業量が多いので大変で3日でやめたのだけど、そこも、女性としての勤務だった。そういうところでは、胸がないと厳しい。

TG-SWの性産業では、異性愛者の性産業で働く人と同じように「キャスト」と呼ぶことが、両産業が同じ枠内にあることを示していると言えるだろう。なにより、インターネットサイト

の分析の中で、女性主体の性産業にトランスジェンダーの人たちが入っていることも多いことは、その証左である。

そして、こうした異性愛の枠組みの中では、挿入行為の中心性がMSMのセックスワークよりも高く、かつ、HIVへの身近感が少ないがゆえに、客側がコンドームを使用しないことを求める傾向性が高い可能性が考えられる。

そうした環境の中で、TG-SWの健康リスクを下げるためにどうした取り組みが考えられるかについては、結論の部分で論じる。

医療に関して

TG-SWにとって、大きな問題となりがちなのが、医療における理解だ。

• **mw-K** さん

(トランス男性である mw-K さんは、2018 年にインタビューした際には、MSM-SW の文脈に位置づけていたため、仮名の冒頭が MSM-SW と共通の mw になっている)

(診察については?) 一応は、躊躇するんですけど、性病って結構わかるじゃないですか。女性ってオリモノとか出てきたりして、これは行かないとやばいなあってなってしまった時に、まあ、調べて症状とか、本当は泌尿器科に行きたいんですけど、なかなか泌尿器科に行くと、女性の生殖器と男性の生殖器と症状が違うじゃないですか。その時に、説明ができないんです。なかなか、泌尿器科に行っても、え、なに? なになに? それ、って言われて、適切な治療をしてもらえなくて、それがすごい困りましたね。

婦人科に行ったこともあって。で、この見た目もそうだけど、保険証も【性別が】変わって、戸籍は男性なんですけど、男性とセックスをしていますという風に説明はするんですけど、なかなかその婦人科でも理解がなくて。どういことですか、って。はるな愛さんみたい

になりたいんですか、みたいに言われたりして。すごい説明だけで、かなり時間を取られるんですよ。

駆け込み寺がないので、もし、自分が STD とか、まあ、HIV になった時とかに、どこに相談したりとか、「ふれいす東京」がしてるので、まあ、あると思うんですけど、やっぱりそういう他の人とかもわからない人がいっぱいいると思うんですよ。で、嫌な思いを病院とかでも。生物学的なところに行かないといけないうってなった時に、困るのではないかな、と。

TG に関する理解を医療従事者に広めていくことが求められている。

E. 結論

2017 年度の調査内容から

- ・先行研究や今回のインタビューでも示されているが、MSM-SW の性行為は SW だけに囲われているわけではなく、ハッテン場での性行為スやパートナーとの性行為との間にもある。

MSM-SW がさらされている健康リスクを考えるということは、最終的にはそうではない MSM も含めた全体の健康リスクについても考えていくことにもなるであろう。

- ・MSM-SW の現場では、HIV/STI 感染予防への十分な配慮に基づいた性行為がおこなわれていたり、あるいは感染リスクの少ない性行為のみがおこなわれていたりする場合もあり、そのような店や個人は、客への HIV/STI に関する情報提供などの窓口ともなれる可能性がある。

- ・AV 業界と SW 業界との連続性もある。これは単にそれらの業界の連続性を見るということだけでなく、MSM-SW のネットワークの形成の指摘でもあり、今後の調査や健康リスク低減のアプローチのあり方を検討する上で重要である

2018 年度の調査内容から

- ・確認できた都内 MSM 向け性産業事業者

(マッサージのみの提供者も含む) は、311 軒であった。そのうち、個人自営が 65.9% を占めている。これら性産業で働く MSM-SW の総数は、2,478 人であり、上位 3 つの事業者により、都内従事者数全体の 15.5% にのぼる。

- ・個人自営で性行為のサービスを提供しているところでは、HIV 等の感染リスクと予防に関して高い意識を持って経営しているところもあり、A 型肝炎に関する情報提供を求めるアクションリサーチとして位置づけたアプローチでは、ハッテン場や各個人の意識の方が問題であるという指摘も受けた。性産業と性感染症を結びつける視点への反発も感じられ、介入の方法には十分な注意が必要と思われる。

- ・行われている性行為とその中での予防行動に関しては、個人自営業者では、サービス内容が基本マッサージとなっていることもあり、性行為サービスを提供していたとしても、手で客を射精させるのが主となっている。オーラルセックスがおこなわれることはあるが、アナルセックスがあるところは少ない。

- ・MSM 性産業全般として、オーラルセックスでは、客が希望しない限りコンドームが使われることはなく、結果、ほとんどコンドームなしで行われている。一方、インタビュー調査からは、アナルセックスではコンドームの使用は高い傾向にあることがわかっている。中・大規模店でも、経営者側からは、従事者である SW に予防を呼びかけている。

- ・予防の実行に関して、MSM-SW 個々人の差が大きい面もあることがインタビューからうかがえており、その個人差に対してどういう働きかけができるのか、検討課題として残る。

2019 年度の調査内容から

- ・インターネット上で把握できた全国の TG-SW が在籍する性産業事業者は、228 軒 (女性主体 148 TG 専門 63 混合 19) であった。それらの店舗で TG-SW として働く人は、1,902 人。TG

専門店の7割近くが、東京、愛知、大阪、福岡に集中しており、また首都圏の店舗で働くTG-SWが全国の数の半分を占める。

・上記のような店舗のインターネットサイト上で、性感染症予防のために客にコンドーム使用を求める文言を明確に提示している店舗は、37.8%しかなく、見た目で性感染症と思われる場合に断ることの承諾を求める文言の43.9%より少ない。

・TG-SWなどのインタビューからは、店舗が客に対してコンドーム使用などを求める態度をどれだけ明確に示しているか、問題行動がある場合に、その後、その客の出入りを禁じることができるかなどが、ワーカー自体の客に対する態度を貫くことへの影響も示唆され、今後、店舗に対して、挿入行為においてコンドームの使用が必須であることをサイト上に明記すること等を求めていくことで、店舗で働くTG-SWのリスク低減につなげていける可能性がある。

・男性を客とする場合、トランス女性もトランス男性も、客は基本異性愛者であり、TG-SWの多様さとは対照的に異性愛関係の枠組みが強く、時に異性関係的なパワーバランスの中でリスクにさらされがちな様子がうかがえた。

・TG-SWは、MSM-SWと連続性や近接性がある。客との関係性などから異性間のセックスワークに近く、そのためHIVなど性感染症に関する情報が届きにくい可能性もある。今後、異性間の性産業の文脈からも、MSM-SWの文脈からもアプローチしていく必要がある。

・MSM-SWに関しては、店舗に所属し働いているSWに関して、おそらく、全体としてアナルセックスにおけるコンドーム使用の傾向性は高い。しかし、今回、時に起こるコンドームなしのアナルセックスや、コンドームなしのフェラチオの繰り返しにより、HIV感染のリスクはぬぐいきれない

・上記のような状況の中で、治療により、HIVが検出限界以下になったHIV陽性者のセックス

ワークが支持されていく環境をつくらなければ、セックスワークが生活基盤であればあるほど（よって、リスクが大きくなりがちな人ほど）検査へのハードルが上がることもあり、また、感染がわかっても言えないという状況が生じる可能性がある。

・HIV陽性のセックスワーカーが受けやすい性感染症の検査機会を設けることなどの環境整備が必要である。

・セックスワーカーの健康問題について考える際、性産業従事者が主たる対象となってしまうが、本研究でも繰り返し指摘してきたように、店舗に所属することなく、「セックスワーカー」という意識なく、金銭の授受を伴いながら性行為をおこなっている人たちが、もっともリスクにさらされている。こうした人たちへのアプローチをいかにおこなっていくかも大きな課題の一つである。

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

なし

引用文献

1)東優子, 2012, 『厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）のHIV感染予防対策とその介入効果に関する研究』平成21～平成23年度 総合研究報告書』

2) Niven H, Jose H, Rawstorne P, Nathan S. 'They love us just the way they love a woman': gender identity, power and transactional sex between men who have sex

- with men and transgender women in Timor-Leste. *Cult Health Sex.* 2017; 7:1-15
- 3) Budhwani H, Hearld KR, Hasbun J, Charow R, Rosario S, Tillotson L, McGlaughlin E, Waters J. Transgender female sex workers' HIV knowledge, experienced stigma, and condom use in the Dominican Republic. *PLoS One.* 2017; 2:12(11)
- 4) Willie TC, Chakrapani V, White Hughto JM. Victimization and Human Immunodeficiency Virus-Related Risk Among Transgender Women in India: A Latent Profile Analysis. *Violence Gend.* 2017; 1:4(4):121-129
- 5) Fernández-López L, Reyes-Urueña J, Agustí C, Kustec T, Serdt M, Klavs I, Casabona J. The COBATEST network: monitoring and evaluation of HIV community-based practices in Europe, 2014-2016. *HIV Med.* 2018; 19 Suppl 1:21-26
- 6) Poteat, Ackerman, Diouf, Ceesay, Mothopeng, Odette KZ, Kouanda S, Ouedraogo HG, Simplicie A, Kouame A, Mnisi Z, Trapence G, van der Merwe LLA, Jumbe V, Baral S. HIV prevalence and behavioral and psychosocial factors among transgender women and cisgender men who have sex with men in 8 African countries: A cross-sectional analysis. *PLoS Med.* 2017; 7:14(11)
- 7) Crosby RA, Salazar LF, Hill B, Mena L. A comparison of HIV-risk behaviors between young black cisgender men who have sex with men and young black transgender women who have sex with men. *Int J STD AIDS.* 2018; Jan
- 8) Lama JR, Lucchetti A, Suarez L, Laguna-Torres A, Guanira JV, Pun M, et al. Association of Herpes Simplex Virus Type 2 Infection and Syphilis with Human Immunodeficiency Virus Infection among Men Who Have Sex with Men in Peru. *JID.* 2006; 194:1459–1466.
- 9) Jacobson JO, Sánchez-Gómez A, Montoya O, Soria E, Tarupi W, Chiriboga Urquiza M, et al. A Continuing HIV Epidemic and Differential Patterns of HIV-STI Risk among MSM in Quito, Ecuador: An Urgent Need to Scale Up HIV Testing and Prevention. *AIDS Behav* Published Online First. Apr 26.2013
- 10) Wade AS, Kane CT, Diallo PAN, Diop AK, Gueye K, Mboup S, et al. HIV infection and sexually transmitted infections among men who have sex with men in Senegal. *AIDS.* 2005; 19:2133–2140.
- 11) Catherine E. Oldenburg,, Amaya G. Perez-Brumer, Sari L. Reisner, and Matthew J. Mimiaga. Transactional sex and the HIV epidemic among men who have sex with men (MSM): Results from a systematic review and meta-analysis. *AIDS Behav.* 2015; 19(12): 2177–2183
- 12) Grov C, Koken J, Smith M, Parsons JT. How do male sex workers on Craigslist differ from those on Rentboy? A comparison of two samples. *Cult Health Sex.* 2017; 19(4):405-421
- 13) MacPhail C, Scott J, Minichiello V. Technology, normalisation and male sex work. *Cult Health Sex.* 2015;17(4):483–95

- 14) Minichiello V, Scott J, Callander D. New pleasures and old dangers: reinventing male sex work. *J Sex Res.* 2013;50(3-4):263-75
- 15) Verhaegh-Haasnoot A, Dukers-Muijers NH, Hoebe CJ. High burden of STI and HIV in male sex workers working as internet escorts for men in an observational study: a hidden key population compared with female sex workers and other men who have sex with men. *BMC Infect Dis.* 2015; 15:291
- 16) Cai YM¹, Song YJ, Liu H, Hong FC. *Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi.* Factors associated with commercial sexual behavior among men who have sex with men in Shenzhen, China, in 2011-2015. *Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi.* 2016; 6;50(11):943-948 (Translated in PubMed)
- 17) G Sethi, B M Holden, J Gaffney, L Greene, A C Ghani, and H Ward. HIV, sexually transmitted infections, and risk behaviours in male sex workers in London over a 10 year period. *Sex Transm Infect.* 2006; 82(5): 359-363.
- 18) Ballester R, Salmeron P, Gil MD, Gomez S. Sexual risk behaviors for HIV infection in Spanish male sex workers: differences according to educational level, country of origin and sexual orientation. *AIDS Behav.* 2012;16(4):960-8
- 19) Solomon MM, Nureña CR, Tanur JM, Montoya O4, Grant RM, McConnell JJ. Transactional sex and prevalence of STIs: a cross-sectional study of MSM and transwomen screened for an HIV prevention trial. *Int J STD AIDS.* 2015 Oct;26(12):879-86
- 20) Kristen Underhill, Kathleen M. Morrow, Christopher M. Collieran, Richard Holcomb, Don Operario, Sarah K. Calabrese, Omar Galárraga,⁴ and Kenneth H. Mayer. Access to Healthcare, HIV/STI Testing, and Preferred Pre-Exposure Prophylaxis Providers among Men Who Have Sex with Men and Men Who Engage in Street-Based Sex Work in the US. *PLoS One.* 2014; 9(11)
- 21) Underhill K¹, Morrow KM, Collieran C, Holcomb R, Calabrese SK, Operario D, Galárraga O, Mayer KH. A Qualitative Study of Medical Mistrust, Perceived Discrimination, and Risk Behavior Disclosure to Clinicians by U.S. Male Sex Workers and Other Men Who Have Sex with Men: Implications for Biomedical HIV Prevention. *J Urban Health.* 2015; 92(4):667-86
- 22) Guadamuz TE, Clatts MC, Goldsamt LA. Heavy Alcohol Use Among Migrant and Non-Migrant Male Sex Workers in Thailand: A Neglected HIV/STI Vulnerability. *Subst Use Misuse.* 2018; 20:1-8
- 23) Tan D, Holloway IW, Gildner J, Jauregui JC, Garcia Alvarez R, Guilamo-Ramos V. Alcohol Use and HIV Risk Within Social Networks of MSM Sex Workers in the Dominican Republic. *AIDS Behav.* 2017; 21(Suppl 2):216-227
- 24) Gary Yu, Michael C. Clatts, Lloyd A. Goldsamt, Le Minh Giang. Substance Use among Male Sex Workers in Vietnam: Prevalence, Onset, and Interactions with

Sexual Risk. *Int J Drug Policy*. 2015; 26(5):
516–521.

25) Catherine E. Oldenburg, Amaya G. Perez-
Brumer, Katie B. Biello, Stewart J. Landers,
JD, Joshua G. Rosenberger, David S. Novak,,
Kenneth H. Mayer, Matthew J. Mimiaga.
Transactional Sex Among Men Who Have Sex
With Men in Latin America: Economic,
Sociodemographic, and Psychosocial Factors.
American Journal of Public Health. 2015; Vol
105, No. 5.

26) Klingenschmidt J, Parriault MC, Van Melle
A, Basurko C, Gontier B, Cabié A, Hoen B, Sow
MT, Nacher M. Transactional sex among men
who have sex with men in the French Antilles
and French Guiana: frequency and associated
factors. *AIDS Care*. 2017; Jun;29(6):689-695

27) 地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援
する研究班, 2017, 『平成 29 年度 厚生労働科学
研究費補助金 エイズ対策政策研究事業「LASH
調査」報告書』